Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Y994
J10180

帝國地方行政學會編輯局編纂

加除自在

現行烏取縣令規全集 第一綴

帝國地方行政學會發行

東京
3. 4. 4
文內

加除自在

現行烏取縣令規全集類別一覽

第一綴

第一類 例規
第二類 地方制度
第三類 會計
第四類 議員選擧
第五類 恤救、感化
第六類 土木、地理
第七類 社寺、宗教
第八類 兵事
第九類 學務

第二綴

第十類 勸業
第十一類 警察
第十二類 衛生

帝國地方行政學會編輯局編纂

加除自在 現行鳥取縣令規全集 第一綴

帝國地方行政學會發行

大正
9. 4. 4
內交

加除自在

現行鳥取縣令規全集類別一覽

第一綴

第一類 例規
第二類 地方制度
第三類 會計
第四類 議員選舉
第五類 恤救救護
第六類 土木、地理
第七類 社寺、宗教
第八類 衛生
第九類 產業

第二綴

第十類 勞働
第十一類 警察
第十二類 雜件

Y994-J10180

帝國地方行政學會叢書

縣令集全集

帝國地方行政學會叢書
I種
W
1200901276942

編纂例

一本書ハ大正六年二月十五日迄ニ公布セラレタル鳥取縣ノ布達、達、縣令、訓令、告示等ヲ其種別ニ從ヒ類ヲ別チ章ヲ逐テ輯錄ス

一本書ハ專ラ實用ニ便ナラシメンカ爲メ同性質ノ令規ハ固ヨリ其他之ニ關聯スルモノハ總テ同一個所ニ輯錄セリ

一各令規ノ首ニハ題目ヲ掲クルヲ例トス但同一事項ニ關スルモノニシテ一題目ノ下ニ併合スルヲ便宜トスルモノハ首ノ一令規ニノミ題目ヲ附シ他ハ之ヲ省略セリ

一本書ニハ總目次、細目次、年別索引及類別一覽ヲ附シ以テ令規

ノ檢索ニ便ス但年別索引ハ追錄ヲ以テ刊行ス

一本書ハ加除自在ノ式ヲ採用シ絕エス發行スル追錄ニ依リ令規ノ新規發布及改廢等ヲ補正ス

一本書編纂ノ目的トスル處ハ鳥取縣廳ヲ始メトシ郡市役所、町村役場、公共組合、警察官署其他各種學校ハ固ヨリ苟モ鳥取縣令規ノ下ニ活動セラル、諸士ノ日常便益ニ供セントスルニ在リ

大正六年三月

編者識

加除自在

現行鳥取縣令規全集總目次

第一類　例規
第一章　公布式、文書
第二章　儀式、褒賞
第三章　統計、報告
第四章　雜

第二類　地方制度
第一章　縣制度
第一節　縣吏員、職員
第二節　縣有財產
第三節　縣稅、賦金
第二章　郡制度
第三章　市町村制度
第一節　通規
第二節　市町村吏員
第三節　市町村財務
第四節　雜
第四章　水利組合制度

第三類　會計
第一章　國費
第二章　縣費

第四類　議員選擧

第五類　恤救、感化

第六類　土木、地理

第一章　土木區、土木工事
第二章　土木費
第三章　土地、水面、河川及港灣
第四章　道路、橋梁及渡津

第七類　社寺、宗教

第八類　兵事

第九類　學務

第一章　御影、勅語
第二章　普通教育
第一節　小學校、幼稚園
第二節　中學校
第三節　高等女學校
第三章　師範教育
第四章　實業教育
第五章　私學教育
第六章　職員
第七章　學校衞生
第八章　教育費
第九章　統計、報告
第十章　雜

第十類　勸業

第一章　普通農事
第二章　肥料、害蟲驅除
第三章　耕地整理
第四章　米穀檢査
第五章　蠶絲業
第六章　畜産、獸疫
第七章　獸醫、蹄鐵工
第八章　森林、鑛業

第九章　水産
第十章　移住
第十一章　商工
第十二章　船舶
第十三章　博覽會、共進會及陳列場
第十四章　産業組合、同業組合
第十五章　度量衡
第十六章　氣象
第十七章　雜

第十一類　警察

第一章　通規
第二章　安寧
第三章　風俗
第四章　營業
第五章　交通
第六章　渡航、外國人
第七章　司法

第十二類　衞生

第一章　醫師、藥劑師、産婆及看護婦
第二章　鍼灸、按摩及口中療治
第三章　健康診斷
第四章　藥事
第五章　飲食物
第六章　傳染病
第七章　汚物掃除、芥溜、厠圊及惡臭肥料
第八章　屠畜、斃牛馬
第九章　墓地、埋火葬及胞衣埋沒
第十章　雜

第一類例規

加除自在

現行鳥取縣令規全集目次

第一類　例規

第一章　公布式、文書

明治三十一年三月三十一日縣令第十六號	縣令郡令公布ノ方法	一
明治三十八年三月二十九日訓令第二十二號	訓令式	一
明治十七年九月二十九日丙第百八十九號	官省ヨリ府縣一般ヘノ達邊奉方	一
明治三十四年一月二十四日訓令第三號	官報登載ノ各省訓令ニ關シ心得方	一
明治二十三年一月二十二日縣令第五號	從前ノ令達中郡長トアルハ郡市長郡役所トアルハ郡市役所ト改ムルノ件	一
明治十七年六月二十四日乙第八十九號	掲示場設置方	二
明治十年十一月二十二日乙第百三十號	願伺屆書共數葉ニ渉ルモノ奥印ノ際綴合ニ押印方	二
明治二十一年十二月二十四日達第七十五號	諸伺上申請訓書等副本ヲ差出スニ及ハス	二
明治二十二年四月十八日縣令第四十六號	警察署分署ニ差出ス願書ニハ戶長奥書ヲ要セサル件	二
明治二十九年一月二十二日縣令第十二號	縣廳又ハ縣廳ヲ經テ他官廳ニ差出ス文書ハ郡市役所等經由ノ伺	二

明治四十一年七月四日訓令第三十二號	縣廳ヘ差出スヘキ人民願届書ハ專實ノ調査報告等ヲ要セサル件ノ外添書ヲ要セサル件	二
明治四十五年五月三十日訓令第三十號	市役所町村役場ヲ經由スル文書取扱方	三
明治三十年一月二十七日訓令第八號	稅務ニ關シ直接文書往復ノ件	三
明治二十六年七月三日訓令第百十二號	郡市役所町村役場ヨリ北海道廳管下ヘ發送スル公書ニ關スル件	三
明治二十二年九月十一日訓令第十一號	郵便ヲ以テ往復スル文書取扱方	三
明治四十年八月十六日訓令第三十一號	電報符號	四

第二章　儀式、褒賞

明治三十四年十一月二十二日訓令第七十一號	三大節ニ於テ判任官等參賀及賀表差出方	五
明治二十八年十二月二十五日訓令第百三十二號	元始祭當日最寄神社ヘ參拜ノ件	六
明治十一年二月七日甲第三十三號	非職無位ノ輩ハ羽織袴ヲ以テ禮服ニ換用不苦件	六
明治十五年六月十九日乙第四十二號	褒章條例ニ依リ屆出ノ際ハ其褒章等賜ルヘキ要旨詳細具狀方	六

明治三十一年十月六日訓令第百十六號	公益ノ爲メ金穀物品ヲ寄附又ハ施與セシモノアルトキ報告方	七
明治三十六年九月十日訓令第三十三號	奇特者報告ノトキ罹災ノ年月日記入方	八

第三章　統計、報告

大正六年一月十七日訓令第一號	統計報告期限簿調製規程	八
大正五年六月十四日訓令第二十九號	統計ニ關スル心得方	一一
明治三十一年十二月一日訓令第百三十三號	人口統計表進達期限	一二
大正四年一月十四日訓令第一號	統計小票控簿樣式	一二
明治二十七年十月五日訓令第百五十號	農商工統計報告規程	一七
大正四年七月二十四日訓令第三十二號	鳥取縣農商工統計報告規程	一八
明治十九年十二月二十五日達甲第三十九號	郡役所ニ官報報告主任ヲ置クノ件	一七四

第四章　雜

明治二十年十一月九日達第百十號	官吏服務規律改正ニ付心得方	一七四
明治二十二年四月五日訓第十二號等	官吏其職務外ニ於テ公衆ニ對シ政事上ノ意見ヲ演說セントスルトキ屆出方	一七四
明治十七年五月二十日番外	公用印章押用ニ關シ注意方	一七四
明治三十一年三月四日訓令第二十號	郡長署所長等公務ノ爲メ出縣シタルトキ宿所屆出ノ件	一七五
明治三十八年十月二十二日訓令第五十八號	新任又ハ他廳ヨリ轉任シタル者ハ履歷書差出ノ件	一七五
明治四十四年十二月二日縣令第四十八號	社團及財團法人取締規程	一七五
明治三十七年十月八日訓令第六十號	社團又ハ財團ヲ法人ト爲スニ付申請書ノ經由方申出ノ場合取調方	一七六
明治三十五年十一月二十一日訓令第七十一號	勤儉貯蓄奬勵ノ件	一七六
明治三十八年十月二十四日訓令第六十號	勤勉貯蓄ノ實況報告方	一七七
明治二十四年十月六日縣令第六十三號	門戶表札書式	一七七

加除自在　現行鳥取縣令規全集

第一類　例規

第一章　公布式、文書

●縣令郡令公布ノ方法

縣令第十六號（明治三十一年三月三十一日）

縣令ハ鳥取新報因伯時報及山陰日々新聞ニ登載スルヲ以テ公布ノ方法トス

但該新聞紙中發行シ得サルモノアルトキハ一種ノ新聞紙ノミニ登載シ其三種ノ新聞紙共ニ發行シ得ザルトキハ縣廳及郡市役所町村役場ノ掲示場ニ掲示スルヲ以テ公布ノ方法トス

郡令ハ郡役所町村役場ノ掲示場ニ掲示スルヲ以テ公布ノ方法トス

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年（十一月）鳥取縣令第五十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●訓令式

訓令第二十二號（明治三十八年三月二十九日）

本縣訓令ハ明治三十八年四月一日以降縣下鳥取市ニ於テ發行スル鳥取新報因伯時報及山陰日々新聞ニ掲載スルヲ以テ訓令式トス但シ該新聞紙中發行シ得サルモノアルトキハ一種ノ新聞紙ノミニ掲載シ三種ノ新聞紙共ニ發行シ得サルトキハ訓令書ヲ發ス

●官省ヨリ府縣一般ヘノ達遵奉方

丙第百八十九號（明治十七年九月二十九日）

官省ヨリ府縣一般ヘノ諸達中郡役所ニ於テ適用スヘキ事項ハ直ニ之レヲ遵奉スルハ勿論ニ付自今官報ニ登載アルモノニシテ右ニ關スル事項ハ當廳ヨリ別段達セサルヘシ

但於當廳更ニ取捨增減ヲ要スルモノハ其都度別段相達スヘシ

各府縣郡區長委任條件及郡區役所移轉等ニシテ官報ニ登載アルモノモ亦タ前項ニ同シ

右相達候事

郡役所

●官報登載ノ各省訓令ニ關シ心得方

訓令第三號（明治三十四年一月二十四日）

警察署　警察分署

縣ニ對スル官報登載ノ各省訓令ニシテ其儘警察署警察分署ニ適用スルヲ得ヘキ事項ニ付テハ別ニ本官ヨリ訓令セサルコトアルヘク此場合ニ於テハ各省ノ訓令ヲ以テ本官ノ訓令ト心得遵行スヘシ

從來ノ訓令ニ對シテ本文ニ準スル義ト心得ヘシ

●從前ノ令達中郡長トアルハ郡市長郡役所トアルハ郡市役所ト改ムルノ件

縣令第五號（明治二十三年一月二十一日）

從前ノ令達中郡長トアルハ郡市長郡役所トアルハ郡市役所ト改ム

●掲示場設置方

乙第八十九號(明治十七年六月二十四日)

郡役所　戸長役場

自今布達布告類其他普ク人民ヘ告知スヘキ事件掲示セン爲メ各戸長所轄内最寄ノ地所ヲ撰ミ島根市内ハ五ケ所町村役場部内ハ三ケ所以内適宜ノ掲示場ヲ設置可致尤其費用ハ總テ町村費ヲ以テ支辨候義ト心得ヘシ此旨布達候事

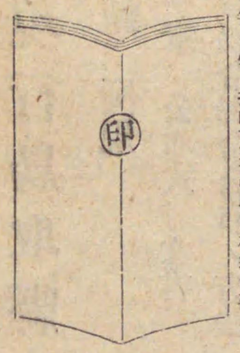
但掲示場位置及其數ハ來ル七月限リ戸長ヨリ郡長ヘ可屆出郡長ハ一郡限リ取調書ヲ製シ來ル八月十日迄ニ當廳ヘ開申スヘク以後異動アル毎ニ戸長ヨリ當廳ヘ屆出ヘシ

●願伺屆書共數葉ニ渉ルモノ奥印ノ際綴合ニ押印方

乙第百三十號(明治十年十一月二十二日)

各區區戸長

自今諸願伺屆書共紙數數葉合綴スル書面ハ奥印ノ際區戸長ノ内一名左式ノ通綴合セ毎ニ必ス押印可差出此旨相達候事



●諸伺上申請訓書等副本ヲ差出スニ及ハス

達第七十五號(明治二十一年十二月二十四日)

郡役所　戸長役場

諸伺上申請訓書等ハ自今副本ヲ差出スニ及ハス

●警察署分署ニ差出ス願書ニハ戸長奥書ヲ要セサル件

縣令第四十六號(明治二十二年四月十八日)

自今警察署分署ニ差出願屆書ニハ戸長ノ奥書ヲ要セス但從前ノ令達中本文ニ抵觸スル廉ハ廢止ス

●縣廳又ハ縣廳ヲ經テ他官廳ニ差出ス文書ハ郡市役所等經由ノ件

縣令第十二號(明治二十九年一月二十二日)

縣廳又ハ縣廳ヲ經テ他官廳ニ差出ス伺願屆上申其他總テノ文書ハ郡市役所町村役場ヲ經由スヘシ

郡役所又ハ郡役所ヲ經テ他官廳ニ差出ス伺願屆上申其他總テノ文書ハ町村役場ヲ經由スヘシ

別段ノ規定アルモノハ前各項ニ依ルノ限リニ非ス

警察官署(又ハ收稅署)ヲ經由差出ス文書ハ現行ノ規定ニ依ル

明治十七年(一月)甲第五號同年(五月)甲第三十九號布達ハ廢止ス

●縣廳ヘ差出スヘキ人民願屆書ハ事實ノ調査報告等ヲ要スルモノ

【鳥取令】

ノ外添書ヲ要セサル件

訓令第二十二號(明治四十一年七月四日)

警察署長　警察分署長

法令ニ依リ當廳ヲ經由シ若ハ當廳ヘ差出スヘキ人民願屆書類ヲ受ケタルトキ事實ノ調査報告ヲ要スルカ又ハ意見アルモノヲ除クノ外自今別ニ添書ヲ爲スニ及ハス該文書右傍欄外中部以下ヘ署長職印押捺ノ上進達ス

●市役所町村役場ヲ經由スル文書取扱方

訓令第三十號(明治四十五年五月三十日)

郡長　市長

町村長

市役所町村役場ヲ經由スル伺願屆上申其ノ他總テノ文書ハ市町村長ニ於テ意見アルモノハ之ヲ副申シ意見ナキモノハ其ノ初行ニ左記樣式ノ印章ヲ押捺スヘシ

町村長ヨリ縣廳ニ又ハ縣廳ヲ經テ他官公署ニ差出ス伺願屆上申其他總テノ文書ハ郡役所ヲ經由スヘシ

別段ノ規定アルモノハ前各號ニ依ルノ限ニ非ラス

附則

明治二十九年(一月)鳥取縣訓令第三號及明治三十一年(九月)鳥取縣訓令第九四號ハ之ヲ廢止ス

樣式

一寸五分

年　月　日受附	六分五厘
年　月　日進達	
何郡何町(村、組合)役場(何市役所)	

●税務ニ關シ直接文書往復ノ件

【鳥取令】

訓令第八號(明治三十年一月二十七日)

郡役所　市役所

明治二十九年(十月)勅令第三百三十七號ヲ以テ税務管理局ヲ被置タルニ付税務上ニ關シテハ右(管理局)ト直接文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

●郡市役所町村役場ヨリ北海道廳管下ヘ發送スル公書ニ關スル件

訓令第百十二號(明治二十六年七月三日)

郡役所　市役所

町村役場

郡市役所町村役場ヨリ發送ノ公書ニシテ北海道廳管下戸長役場ニ送付スヘキモノヲ郡役所ニ送付シ郡役所ニ照會スヘキ件ニシテ北海道廳ニ照會シ甚シキハ町村役場ヨリ直ニ同廳ヘ照會送付等ノ類モ有之右ハ新來移民等原籍ヘ誤謬ノ屆ヲ爲スニ起因スル義ニモ可有之ニ付參考ノ爲メ別紙郡區町村區畫表添付將來注意方依頼有之候條不都合無之樣取扱フヘシ

(別紙略ス)

●郵便ヲ以テ往復スル文書取扱方

訓令第十一號(明治二十二年九月十一日)

郡役所　監獄

警察署　警察分署

縣立學校　縣立病院

從來文書ノ往復ヲ觀ルニ事ノ至重又ハ急要ナラサルモノヲ書留郵便或ハ別配達郵便トシ又所部ノ官衙等ヨリ差出ス所ノ紙冊浩瀚ノ文書中纔カニ二三

ノ不調アルニ當リ其全部ヲ返付スル等之レカ往復ノ間冗費ノ郵稅ヲ費消スルコト鮮少ナラサル有樣ニ候處自今ハ實際其事ノ至重又ハ急要ナルモノニ非サレハ書留郵便或ハ別配達郵便ト爲サス又其紙冊浩瀚二枚以上ナル文書亦同シ中不調等アル場合ハ其不調ニ係ル文書ノ要部ヲ摘錄照會シ之カ回答ヲ得タル上其原書ニ訂正ヲ加フヘシ但シ諸表諸報告等一旦當廳ヘ進達ノ末訂正等ヲ要シ引換方ヲ申出ルトキハ其郡度先書返付シ來候處中ニハ到底不用ニ屬シ返付ノ必要ナキモノモ可有之ニ付自今右等先書ノ返付ヲ要セサル分ハ其引換方申出ノ際其旨併テ關申スヘシ郡役所其他ノ官衙ニ係ルモノモ亦同シ

●電報符號

訓令第三十一號（明治四十年八月十六日）

明治四十年（三月）鳥取縣訓令第十號電報符號別紙ノ通改正ス

郡	長	警察署長
警察分署長		縣立學校長
縣立農事試驗場長		縣立種畜場長
縣立水產試驗場長		測候所長
蠶病豫防事務所長		縣立病院長
縣立娼妓病院長		土木區工營所主任
物產陳列場長		

電報發信者用語符號表

符號	官職名	符號	官職名	符號	官職名
一	知事	ナイ	內務部長	ケイ	警務（警察部長）
二	事務官	チカ	知事官房	シヨ	內務部庶務課長
トホ	內務部土木課長	カク	內務部學務課長	カン	內務部勸業課長
カ、イ	內務部會計課長	ケム	警察部警務課長	ホア	警察部保安課長
コト	高等警察主任	イク	岩美郡長	ヤク	八頭郡長
ケク	氣高郡長	トク	東伯郡長	サク	西伯郡長
ヒク	日野郡長	トケ	鳥取警察署長	イケ	岩井警察署長
ワ、ケ	若櫻警察署長	チケ	智頭警察分署長	カケ	河原警察署長

〔鳥取令〕

ヨシケ	吉岡警察署長	アケ	青谷警察分署長	ハケ	橋津警察分署長
クラケ	倉吉警察署長	ヤケ	八橋警察署長	ヨトケ	淀江警察分署長
ヨケ	米子警察署長	サケ	境警察署長	ミケ	溝口警察分署長
クケ	黑坂警察署長	シカ	鳥取縣師範學校長	一カ	縣立第一中學校長
二カ	縣立第二中學校長	ノカ	縣立農學校長	コカ	縣立高等女學校長
サ	境測候所長	ベウ	縣立鳥取病院長	ノウ	鳥取縣農事試驗場長
シユ	鳥取縣種畜場長	スイ	鳥取縣水產試驗場長	フツ	鳥取縣物產陳列場長
サン	鳥取縣蠶病豫防事務所長	ゲサ	原蠶種製造所長	一コ	第一土木區工營所主任
二コ	第二土木區工營所主任	三コ	第三土木區工營所主任	トシ	縣立鳥取娼妓病院幹事
ヨシ	縣立米子娼妓病院幹事	ケフ	警部	シサフ	巡查部長
シサ	巡查				

〔鳥取令〕

備考

一　本符號ハ本表掲載ノ官公署官公吏等ニ限リ適用スルモノトス

一　本符號ハ明治四十年八月二十日ヨリ使用スルモノトス

第二章　儀式、褒賞

●三大節ニ於テ判任官等參賀及賀表差出方

訓令第七十一號（明治三十四年十一月二十二日）

郡長　警察署長
警察分署長　土木區工營所主任
縣立學校長　測候所長
水產試驗場長　種畜場長
農事試驗場長　市長
公立學校長

新年、紀元節、天長節祝日ニ於テ判任官判任待遇ノ職員參賀及賀表差出方左ノ通改定ス

一 縣廳所在地ニ在ル官衙ニ勤務セル職員ニ對シテハ左ノ順序ニ依リ午前九時ヨリ縣廳ニ於テ拜賀式ヲ擧行ス

第一 判任官及判任待遇以下一同(巡査ヲ除ク)

第二 巡査

縣立學校公立學校ノ職員及縣廳所在地外ニ在ル官衙ニ勤務セル職員ハ當該官衙又ハ學校ニ參賀シ第一號式ノ賀表ヲ差出スヘシ

二 參賀當日高等官ハ大禮服著用式場ニ參列スヘシ

三 參賀當日判任官ハ大禮服(脅部ハ正裝)判任待遇ハ通常禮服(巡査ハ正裝)著用擧式三十分前ニ參廳シ名刺ヲ知事官房ニ差出スヘシ

四 擧式ハ第一ノ順序ニ依リ拜柝ヲ以テ之ヲ報ス

各職員ハ知事官房屬ノ案内ニ依リ第三號式ノ如ク順次賀席ニ著ク次ニ知事、以下高等官ハ知事官房屬ノ先導ニ依リ順次賀席ニ著ク此ノ時知事官房屬

御眞影ノ被ヲ揭ク知事先ツ禮拜以下高等官順次禮拜次ニ上席者知事ノ前ニ進ミ賀詞ヲ述フ此ノ時一同最敬禮畢テ上席者席ニ復シ(此ノ時官房屬御被ヲ覆フ)知事以下高等官退出ノ後順次退出スルモノトス

前項ノ順序中第二ノ場合ニ在リテハ

御眞影ノ被ヲ揭クルト同時ニ上席者進ミテ賀詞ヲ述フルモノトス

五 參賀當日出張若ハ歸省、病氣等ニシテ參賀シ能ハサルトキハ第二號式ノ賀表差出スヘシ尤モ病氣ハ事由ヲ具シ不參屆ヲ添附スヘシ但シ賀表ハ便宜連名ヲ以テスルモ妨ケナシ

六 賀表ハ官衙及縣立學校職員ニ係ルモノハ各々其ノ長ニ於テ公立小學校職員ニ係ルモノハ郡市長ニ於テ取纏メ速ニ本廳ニ進達スヘシ

七 縣廳所在地外ノ官衙及學校職員ニシテ出縣中祝日ニ當リタルトキハ本訓令第二第三ノ例ニ據ルヘシ

(樣式略ス)

●元始祭當日最寄神社ヘ參拜ノ件

訓令第百三十二號(明治二十八年十二月二十五日)

郡役所 警察署
警察分署 監獄支署
測候所 土木區工營所

毎年一月三日ハ元始祭ニ付最寄神社(適宜參拜スヘシ

●非職無位ノ輩ハ羽織袴ヲ以テ禮服ニ換用不苦件

甲第三十三號(明治十一年二月七日)

自今非職無位ノ輩ハ羽織袴ヲ以テ禮服ニ換用不苦候條此旨爲心得布達候事

●褒章條例ニ依リ屆出ノ際ハ其褒章等賜ルヘキ要旨詳細具狀方

乙第四十二號(明治十五年六月十九日)

郡役所 戸長役場

客年第六十三號公布褒章條例發行相成候就テハ自今該條例ニ據リ屆出候節ハ其褒章等賜ルヘキ要旨ヲ詳記シ且左ノ廉々無遺漏取調具狀可致此旨相達候事

但明治九年島根縣乙第百四十四號達ハ消滅候義ト心得ヘシ

一 住所族籍

一 官位勳等

一 姓名年齡生年月モ記載スヘシ

一 履歷賞罰ノ有無ヲ記スルヲ要ス

一 平素行狀志操ノ顯レシ年月其後間斷ノ有無等

一 事業經營ノ始末及ヒ將來維持ノ方法

一 校舍ノ構造建坪其他工事ノ模樣繪圖面等ヲ添フ宜トス

一 教師生徒ノ員數

一 孝養等ヲ受ル祖父母父母等ノ年齡生年月モ記載ス若シ病氣アラハ其病名經過等

一 其戸主並ニ家族ノ職業及家產ノ大略

一 親戚近隣或ハ一町村或ハ數村或ハ一郡等稱譽スル等ノ區別例ハ溺水者ヲ救助ノ人命ヲ救助セシモノナレハ其詳細ノ景況勞働ノ難易セシハ川幅並水ノ深淺流ノ緩急等ノ類ニシテ都テ繪圖ヲ付スルヲ要ス

一 同上救助者ト被救助者トノ關係

●公益ノ爲メ金穀物品ヲ寄附又ハ施與セシモノアルトキ報告方

訓令第百十六號(明治三十一年十月六日)

郡役所 市役所
町村役場

公益ノ爲メ金穀物品ヲ寄附又ハ施與セシモノアルトキハ市町村長ハ金額ヲ拾圓未滿ト拾圓以上トニ區分シ左ノ樣式ニ依リ毎月取調各別紙ニ記載シ翌月五日限當廳ニ報告スヘシ

明治十七年二月乙第二十七號ハ廢止ス

明治何年何月中(拾圓未滿)(拾圓以上)寄特者報告

金員	物品	願旨	住所	族籍官位勳等	氏名
何程	何書籍何部 此價金何程	何小學校ヘ寄附	何市何町	華族何爵 何々官何位	何ノ誰
何程		何年度何小學校何費ヘ寄附	何郡何村	士族何 勳等	何ノ誰
何程		何年度本村歲出何費ヘ寄附	何縣何郡何町	平民	何ノ誰
	何々何箇 此價金何程	本村役場備品トシテ寄附	何郡何村	何々	何ノ誰
	玄米何石何斗 此價金何程	本村貧民ヘ救助	同	故何ノ誰相續人 何々	何ノ誰
	白米何石 此價金何程	本町火災人ヘ施與	何市何町	何々	何ノ誰
何程	何品何箇 此價金何程	同上施與	何郡何村	何々	何ノ誰

人夫何人 此賃金何程	同	上	同	何	々	何	人	誰

右及報告候也

年　月　日

何郡市町村長　氏　名 ㊞

知事宛

附言

一寄附又ハ施與ノ手續ヲナスモ實際其金品納入濟ノモノニアラサレハ報告スヘカラス

一施與者ト被施與者ト親族ノ關係ナキヤ否ヲ調査シ其關係ナキモノニ限リ報告スヘシ其他相互ノ寄贈ハ施與トシテ取扱フ限ニアラス

一奇特者中重罪ノ處刑ヲ受ケタル者ハ其刑名ヲ肩書スヘシ

一報告後行賞前ニ於テ死亡者アルトキハ其遺族ノ氏名他ヘ轉籍シタルモノハ其府縣郡市町村名重罪ノ處刑ヲ受ケタル者ハ其刑名等報告スヘシ

一欄内ニ掲載シ難キ廉ハ餘白又ハ別紙ニ附記スヘシ

一郡費又ハ水利組合費ニ對シ寄附シタルモノアルトキハ本令ニ準スヘシ

●奇特者報告ノトキ罹災ノ年月日記入方

訓令第三十三號(明治三十六年九月十日)

郡(市)役所　町村役場

明治三十一年(十月)鳥取縣訓令第百十六號ニヨリ奇特者報告ヲ爲スニ當リ水火災等ノ節被害者救恤ノ爲金員及物品ヲ施與セシモノニ限リ報告書ノ欄外ニ必ス罹災ノ年月日ヲ記入スヘキ義ト心得ヘシ

第三章　統計、報告

●統計報告期限簿調製規程

訓令第一號(大正六年一月十七日)

郡市町村長

統計報告則限簿調製規程左ノ通之ヲ定ム

統計報告期限簿調製規程

第一條　郡市町村長ハ別紙統計報告期限簿ヲ調製スヘシ

第二條　郡市町村長ハ統計年報ニ屬スルモノニシテ上級廳ヘ報告ノトキ其ノ年月日ヲ統計報告期限簿ニ記入スヘシ

第三條　郡市町村長ハ統計報告期限簿ニ依リ常ニ吏員ヲ督勵シ期限ノ勵行ヲ期スヘシ

第四條　郡長ハ別紙統計報告期限ノ成績表ヲ調製シ毎年二月町村長ニ送付スヘシ

附則

第五條　本規程ハ大正六年二月ヨリ施行ス

〔鳥取令〕

統計報告期限簿用紙

種目	報告期限	大正　年		大正　年		大正　年		大正　年		大正　年		大正　年	
		報告月日	報告期限遲速日數	報告月日	報告期限遲速日數	報告月日	報告期限遲速日數	報告月日	報告期限遲速日數	報告月日	報告期限遲速日數	報告月日	報告期限遲速日數
		遲速		遲速		遲速		遲速		遲速		遲速	

（用紙ハ美濃紙トス）

〔鳥取令〕

統計報告期限成績表

大正　年

町村名	表數	督促度數	不備照會度數	報告期限遲速日數 遲	報告期限遲速日數 速	一表ニ對スル遲延日數

●人口統計表進達期限

訓令第百三十三號（明治三十一年十二月一日）

郡役所
町村役場　市役所

一本年（十一月）内閣訓令第一號ヲ甲號第四條ニ依リ調製スヘキ諸表ハ町村役場ハ各三通ヲ市役所ハ同二通ヲ作リ町村役場ハ二月末日限リ郡役所ニ進達シ郡役所ハ之ヲ取纏メ其二通ヲ郡市役所ハ目錄ヲ付シ三月二十日限リ縣廳ニ進達スヘシ

一同乙號第五條ニ係ル統計小票ノ進達期限ハ左ノ通

町村役場ヨリ郡役所ヘ進達期限　郡市役所ヨリ縣廳ヘ進達期限

第一期　四月五日　　四月二十日

（別紙）

第二期　七月五日　　七月二十日

第三期　十月五日　　十月二十日

第四期　一月七日　　一月二十二日

一明治二十三年（十二月）鳥取縣訓令第二百三十一號同二十九年（十二月）同第百六十二號同三十一年（九月）同第百八號ハ廢止ス

●統計小票控簿様式

訓令第一號（大正四年一月十四日）

郡　長
市町村長

大正三年（十一月）内閣訓令第二號乙號第二條統計小票控簿ハ内閣統計局長指定事項以外ニ記入事項ヲ增加シ別紙様式ノ通之ヲ定ム

出生票控簿

種類番號	書類受付番號及月日	大字地番號	出生子ノ氏名及生年月日午前午後時	嫡庶私ノ別 嫡 男	嫡 女	庶 男	庶 女	私 男	私 女	職業 父	職業 母
			年月日午前午後時								
			年月日午前午後時								

〔鳥取合〕

死亡票控簿

種類番號	書類受付番號及月日	大字地番號	死亡者氏名及生年月日	配偶ノ關係 未婚 男	未婚 女	配生 男	配生 女	死獨離婚 男	死獨離婚 女	職業 死亡者	職業 家計ノ主	發病ノ年月日	死亡ノ原因
			年月日										

備考

一、嫡庶私ノ別欄嫡庶私トアルハ嫡出子、庶子、私生子ノ略符號ナリ

一、職業ハ嫡出子、庶子ナレハ父ノミ私生子ナレハ母ノミヲ記スヘシ

〔鳥取合〕

年月日

夫	
妻	
夫	
妻	

備考

一、大字地番號ニハ當事者ノ一方ノ本籍カ他ノ市町村ナル場合ハ其ノ一方ノ大字地番號ハ之ヲ記スルヲ要セス
兩當事者共本市町村ニ本籍ヲ有スルトキハ婚家ノ大字地番號ヲ記スヘシ

離婚票控簿

種類番號	書付番號及月日	大字地番號	離婚ノ種類		當事者ノ氏名	所在地 府縣郡市町村大字	職業
			妻カ去ル	夫カ去ル	戸内		
					夫		
					妻		
					夫		
					妻		
					夫		
					妻		
					夫		
					妻		
					夫		
					妻		

〔鳥取合〕

備考

一、離婚ノ種類欄妻カ去ル、夫カ去ル、戸内トアルハ妻カ夫ノ家ヲ去ルモノ、夫カ妻ノ家ヲ去ルモノ、戸内離婚ノ略符號ナリ
一、大字地番號ニハ當事者ノ一方ノ本籍カ他ノ市町村ナル場合ハ其一方ノ大字地番號ハ之ヲ記スルヲ要セス兩當事者共本市町村本籍ヲ有スルトキハ婚家ノ大字地番號ヲ記スヘシ
一、裁判上ノ離婚ハ離婚ノ種類中其該當者ニ適宜ノ符號ヲ附シ掲クヘシ

夫	
妻	
夫	
妻	
夫	
妻	
夫	
妻	
夫	
妻	

〔鳥取合〕

●農商工統計報告規程

訓令第百五十號(明治二十七年十月五日)

郡役所市役所

農商工統計報告規程左ノ通相定ム

但明治十九年(五月)乙第七十二號ハ廢止ス

農商工統計報告規程

第一條 郡市長ハ左ノ定期報告ヲ爲ヘシ

一 農商工統計 本縣郡市役所事務報告例中ニ掲クル樣式及報告期調査期後二日限

一 米作收穫高豫想 五月二十七日限

一 麥作收穫高豫想

一 嬰兒(掃立ヨリ三齢ニ至ルマテ)養況及 五月二十七日限
收繭高豫想
一 其ノ他水産物産ノ景況及商工業ノ盛衰 毎翌月五日限
前項第二號ノ調査期ハ二百十日一週間前及秋分ノ二回トス

第二條 郡市長ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ臨時報告ヲ爲スヘシ
但緊急ノ場合ハ直使又ハ電報ヲ以テスヘシ
一 蟲害
一 風雨水旱霜雹ノ害
一 森林ノ火災
一 漁業者ノ遭難
一 其他各種ノ災害及産業上著シキ影響ヲ生スヘキ事件ノ發生シタル場合

第三條 郡市長ハ農商工統計ノ事務ヲ整理セシムル爲メ其役所吏員中統計報告主任ヲ命スヘシ但其主任ヲ命シタルトキ又ハ變更シタルトキハ其都度官職氏名ヲ知事ニ屆出ツヘシ

第四條 郡長ハ町村長ヲシテ農商工統計ヲ調査セシムル場合ニ於テハ可成該町村細業ニ關スル常設又ハ臨時委員ヲシテ其事務ヲ補助セシムヘシ

●鳥取縣農商工統計報告規程

(訓令第三十二號(大正四年七月二十四日)) 郡市長町村長

鳥取縣農商工統計報告規程左ノ通之ヲ定ム

農商工統計報告規程

第一條 農商工統計報告ハ別ニ規程アルモノヲ除ク外總テ本規程ニ依リ報告スヘシ

第二條 統計ニ關スル報告事項、調査方法、様式並報告期限ハ別ニ定ムル處ニ依ルヘシ

第三條 市町村長ハ各大字、字等適宜ノ調査區ニ分チ毎區ニ統計調査員ヲ設置シ其ノ區内ノ調査ヲ擔任セシムヘシ但シ大字、字等調査區ノ戸數三十戸以下ナルトキハ二區以上ヲ合併シ統計調査員一人ヲ置クコトヲ得
鳥取市、東伯郡倉吉町、西伯郡米子町ニ限リ前項ニ據ラスシテ專任統計主任ヲ置クコトヲ得

第三條ノ二 統計調査員ノ手當ハ其ノ調査區域ノ戸數三十戸以下ハ一人一箇年最低額金參圓トシ其ノ以上ハ調査區域ノ戸數ヲ標準トシ相當遞加スヘシ
前項ニ依リ難キ場合ハ其ノ事由ヲ詳記シ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ノ承認ヲ受クヘシ

第四條 統計調査員ハ相當ノ地位名望ヲ有シ産業ノ狀況ニ精通シ且綿密ニシテ統計調査ニ適スル者ヲ選ヒ市町村長之ヲ囑託スヘシ

第五條 統計調査員ハ各個人ニ就キ材料蒐集スル場合ニハ最懇切叮嚀ヲ旨トシ調査ノ目的及事項ヲ明示シ確實ナル答申ヲ爲サシムルコトニ努ムヘシ

第六條 市町村長ハ統計調査員ノ調査報告ニ依リ其ノ適否ヲ調査シタル後統計表ヲ調製シ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ
前項報告ニ於ケル計數ハ其ノ基ク處ノ材料ヲ明カニシ置クヘシ

第七條 郡長ハ町村長ヨリ提出シタル報告ニ依リ其ノ適否ヲ審査シ知事ニ報告スヘシ

第八條 調査員ノ囑託シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第九條 郡長ハ町村統計調査員名簿ヲ備ヘ前條ノ報告ニ基キ登錄スヘシ

第十條 統計調査員ノ訓練ハ郡市統計主任ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但シ縣統計主任ヲシテ之ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條 郡長ハ毎年一回以上町村統計擔任者ヲ招集シテ統計協議會ヲ開催シ必要ナル事項ヲ指示シ且事務ノ統一ヲ計ルヘシ
統計協議會ヲ開カムトスルトキハ一週間前ニ之ヲ知事ニ報告シ更ニ終了後其ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ縣官吏臨席シタル場合ハ狀況ノ報告ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 郡市町村長ハ統計材料ノ正確ヲ期スル爲成ヘク左ノ方法等ニ依リ統計的智識ノ啓發ニ努ムヘシ
一 郡市役所町村役場掲示場、展覽會、品評會、共進會、學校等多數人ノ集合スル場所ニ統計表ヲ掲示スルコト
二 地方ノ休日又ハ夜間ヲ利用シ通俗統計談話會ヲ開催スルコト
三 統計講話會、統計講習會ヲ開催スルコト
四 市町村勢一覽ヲ印刷シ市町村會議員、各區長、學校、青年會等ヘ成ヘク多數配付スルコト

附則

第十三條 本規程ハ大正四年ノ事實調査報告ヨリ之ヲ施行ス

一般ノ注意

一 本様式ニ定ムル事項ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外毎年調査シ報告期限内ニ提出スヘシ
一 各表ニハ備考ヲ附シ顯著ナル增減盛衰等ノ理由ヲ說明スヘシ
一 或表ニ就キ其ノ郡市内ニ事實ナキトキハ其ノ旨ヲ報告スヘシ
一 或表ニ付其ノ地方ニ事實ナキモノハ「—」又事實未詳ノトキハ「未詳」ノ二字ヲ記入スヘシ
一 自家用生産品ト雖別段ノ定アルモノヲ除クノ外之ヲ調査スヘシ
一 官公營ニ係ル試驗場、講習所、學校等ニ於ケル生産品ト雖別段ノ定アルモノヲ除クノ外之ヲ調査スヘシ
一 價額計算方ニ付特ニ其ノ方法ヲ定メサルモノハ其ノ調査時期ノ前月ヨリ遡リ一箇年間ノ其ノ地方市場相場ヲ平均シタルモノヲ以テ計算スヘシ
一 一斤ハ百六十匁、一封度ハ百二十匁九分五厘ヲ以テ計算スヘシ
一 製造戸數ハ製造場ト自宅トヲ問ハス總テ製造ニ從事スル場所ヲ謂ヒ事業主一人ニシテ數箇ノ場所ヲ有スル場合ニハ各別ニ之ヲ計算スヘシ但シ事業主ノ數ハ之ヲ備考トシテ記入スヘシ
一 職工數ハ戸主又ハ家族ト雖事實其ノ職ヲ執ル者ハ之ヲ計算ハヘシ但シ工場票ニ付テハ工場主ヲ除キ計算スヘシ
一 或ル表ニ就キ郡ノ調査ニ係ルモノハ町村ニ於テハ之ヲ省クヘシ
一 報告表ハ謄寫シ校合スルニ止メス更ニ檢算シ違算ナキヲ期スヘシ
一 用紙ハ特ニ指定シタルモノノ外ハ總テ美濃紙ヲ用ユヘシ
一 本様式ニ依ル報告ハ一般統計報告例文ニ依リ別ニ添付書ヲ附セス郡市町村ノ主任者ハ其ノ郡市役所、町村役場ノ下ニ認印ヲ捺シ其ノ正確ナルコトヲ證スヘシ
一 産額ノ多量ナルモノ、特殊ノモノニ就テハ主ナル販路及内地向輸出ノ區別ヲ備考ニ附記スヘシ

目次

農業

農業

第一 農家戸口及作付段別

大正何年十二月末日現在

何郡市役所
何町村役場

〔鳥取令〕

番號	表名	報告期限 町村	報告期限 郡市
第一	農家戸口作付段別		
第二	米	翌年三月十日	翌年四月十日
第三	麥	其ノ年十二月五日	其ノ年十二月二十五日
		同 七月十五日	同 八月五日
第四	食用及特用農產物ノ一	同 八月三十一日	同 九月三十日
第五	食用及特用農產物ノ二	同 十二月二十日	翌年一月二十日
第六	果實	翌年一月十日	同 一月三十一日
第七	綠肥用作物	其ノ年七月十日	其ノ年八月五日
第八	苗木ノ一	同 七月十日	同 八月五日
第九	苗木ノ二	同 七月十日	同 八月五日
第一〇	苗木ノ三	同 七月十日	同 八月五日
第一一	桑畑及茶畑段別	同 七月十日	同 八月五日
第一二	春蠶掃立枚數及收繭高	同 七月五日	同 八月五日
第一三	夏蠶掃立枚數及收繭高	同 十月二十日	同 十一月二十日
第一四	秋蠶掃立枚數及收繭高	同 十一月五日	同 十一月三十日
第一五	養蠶戸數	同 十一月五日	同 十一月三十日
第一六	家畜	同 一月三十一日	同 二月二十八日
第一七	家禽ノ一	其ノ年七月十日	其ノ年八月五日
第一八	家禽ノ二	同 七月十日	同 八月五日
第一九	乳肉製品	翌年一月三十一日	翌年二月二十八日

備考	合計	小作	自作兼小作	自作	農業ヲ主トスルモノ 戸數	農業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 男	農業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 女	農業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 男	農業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 女	農業ヲ從トスルモノ 戸數	農業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 男	農業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 女	農業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 男	農業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 女	計 戸數	計 人口 執業者 男	計 人口 執業者 女	計 人口 從屬者 男	計 人口 從屬者 女

（注意）

一 年末現在ノ現住戸數ニ就キ田畑耕作及園作業者ヲ調査掲記スヘシ

一 農業ヲ主トスルモノノ欄ニハ主トシテ農業ニ依リ生計ヲ立ツルモノ農業ヲ從トスルモノノ欄ニハ他ニ本業ヲ有シ其傍農業ニ從事スルモノヲ掲記スヘシ

一 執業者ノ欄ニハ農業ニ從事スル家族、從屬者ノ欄ニハ農業ニ從事セサル家族ヲ掲記スヘシ

第二 米

大正何年　何郡市役所　何町村役場

市町村名	作付段別					收穫高					平均一段歩收穫高					總價額及一石ニ付價格					備考
	粳米	糯米	陸米	計		粳米	糯米	陸米	計		粳米	糯米	陸米	平均		粳米	糯米	陸米	計		
	町段	町段	町段	町段		石	石	石	石		石	石	石	石		圓	圓	圓	圓		
合計																					

〔鳥取令〕

（注意）

一 作付段別ハ土地臺帳上ノ地目ノ如何ニ拘ハラス實際作付シタル段別ヲ調査スヘシ

一 苗代跡地ト雖作付シタルモノハ本表作付段別ニ記入スヘシ但シ二回目作付ノ段別ハ特ニ備考トシテ記入スヘシ

一 同一ノ水田ニ水稻二回作ヲ爲シタル場合ニハ各則ノ段別ヲ合セ記入スヘシ

一 病害、蟲害、水害等ニ依リ收穫皆無ノ地ト雖作付セシモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

一 作付段別及收穫高ノ調査ニ就テハ市町村ヲ大字區域ニ分チ（大字區域廣汎ナルトキハ適宜數區ニ分ツ）一調査區毎ニ統計調査員ヲシテ成熟則ニ於テ實地ニ付左ノ方法ニ依リ調査セシムヘシ

一 先ツ大字作付ノ内粳米、糯米ニ就キ農業ニ關スル學術若ハ經驗アル者三名以上ノ意見ヲ參酌シ標準ト認ムヘキ上田、中田、下田三等ノ地區ヲ定メ然ル後其ノ各等ノ總段別ヲ調査シ置キ更ニ之ヨリ無收穫地段別ヲ控除シ各其ノ總收穫段別ヲ調査シ

二 次ニ上田、中田、下田各一段歩ヲ皆刈シ其ノ各重量百分ノ一ヲ玄米ニ調製シテ其ノ收穫高ヲ百倍シ則チ各等標準一段歩ノ收穫高ヲ得ル

三 前二號ノ調査終リタル後粳米ニ於ケル上、中、下田各等總收穫段別ニ一段歩當リ收穫高ヲ乘シタル積ヲ合併シタルモノ則チ調査區ニ於ケル其ノ總收穫高トス糯米ニ於ケルモ亦同シ

一 市町村ニ於テ二區以上ノ調査區アル場合ハ前項三號ニ於テ得タル粳米ノ總收穫高竝段別ヲ集計シ其ノ段別ヲ以テ收穫高ヲ除シ一段歩收穫高ヲ得、糯米ニ於ケルモ亦同シ今其ノ算出方法ヲ擧クレハ左ノ如シ

	作付段別	一段歩收穫高	收穫高	備考
何郡 大字 甲 上田	一町五段	二石五〇〇	三七七石五〇〇	一段歩收穫高ハ調査方法第二號ニヨリ得タル標準收穫高
何郡 大字 甲 中田	二八、六	二、一一〇	六〇三、四六〇	
何郡 大字 甲 下田	三、二	一、二三〇	三九、三六〇	本表ノ作付段別ハ實際收穫アリシ段別ヲ調査シタルモノナリ
何郡 大字 計	四六、九		一、〇二〇、三二〇	合計一段歩收穫高ハ總段別ヲ以テ總收穫高ヲ除シタル商ナリ
何郡 大字 乙 上田	八、九	二、七六〇	二四五、六四〇	本算出方法ハ粳米ニ就キ設例シタ
何郡 大字 乙 中田	六、三	二、四三〇	一五三、〇九〇	

〔鳥取令〕

| 村 | | |

査スヘシ

二 次ニ大麥、裸麥、小麥ノ田畑別ニ就キ農業ニ關スル學術若ハ經驗アル者三名以上ノ意見ヲ參酌シ標準ト認ムヘキ中等作柄地ニ付各一段歩ヲ皆刈シ其ノ重量百分ノ一ヲ脱穀シ一段歩收穫高ヲ調査スヘシ

三 前二號ノ調査終リタル後大麥、裸麥、小麥ニ付田畑別總收穫段別ニ一段歩當リ收穫高ヲ除シタルモノヲ以テ調査區ニ於ケル總收穫高トス

一 前項ノ外ハ總テ米表ノ備考ニ依ル

第四 食用及特用農産物ノ一

大正何年　何郡市役所 何町村役場

	作付段別	收穫高	一段歩收穫高	價額	單價	備考
	田	頭	菅	蔕	蒲	豆
菜根類	葱	燕	嬴	茶	豆類	豆類
菽類	豌豆					
	田	畑	計	田	畑	計
	豆類					
	田	畑	計	田	畑	計
	町段	石	石斗	圓	圓	

第五 食用及特用農産物ノ二

大正何年　何郡市役所 何町村役場

	作付段別	收穫高	一段歩收穫高	價額	單價	備考
	馬鈴薯	畑	計	他		
類	其他	葛	菅			
葉菜類	京菜	大葉芥菜	蒙冬	江南竹筍	其他	
菜類	除蟲菊	種	田	畑	計	
			石			花ヲ乾燥シタルモノ
			石斗			
穀	粟	稗				
	町段	石	石斗	圓	圓	

類	種	数量	単位
黍類	黍		
	玉蜀黍		
	蕎麥		
菽類	大豆		
	小豆		
	角豆（サヤ豆）	石	石斗
	菜豆（インゲン豆）	貫	貫
	落花生	莢ノ儘計算スヘシ 石	石斗
	其他		
根類	蘿蔔（ダイコン）	貫	貫
	胡蘿蔔（ニンジン）		
	蕪菁（カブラ）		
	薤（ラッキョー）	石	石斗
	慈姑（タワ井）	貫	貫
	蓮根		
	薑 生		
	薑 干		

生薑百貫ヨリ得ラルヘキ乾薑何貫ナリヤヲ記入スヘシ

〔鳥取令〕

類	種	数量	単位
菜類	牛蒡		
	青芋（サトイモ）		
	甘藷		
	馬鈴薯 計		
	馬鈴薯 畑		
	馬鈴薯 田		
	薯蕷（一年薯佛掌薯伊勢薯ノ類）		
	蒟蒻芋	生ノモノ	石
	百合 生		石斗
	百合 乾		
	其他		
葉菜類	紫蘇（シソ）		
	甘藍（キャベーシ）		
	漬菜（ツケナ）		
	葱		
	芹（ヤリ）		
	茗荷ノ子		

生百合百貫ヨリ得ラルヘキ乾百合何貫ナリヤヲ記入スヘシ

〔鳥取令〕

| | | |

| 何々 | 何々 | | |

柿			華果	枇杷	葡萄	栗	李	杏子	柘榴	銀杏	棗	無花果	柑				
食用	澁用	乾柿											蜜柑（温州紀州ノ類）	ネーブルオレンジ	夏橙	金柑	
		一															
		一															
	石	貫				石		貫		石		貫					
		一															
		一															
	石	貫				石		貫		石		貫					
		一															
		一															
	石	貫				石		貫		石		貫					

生柿百貫ヨリ得ルヘキ乾柿何貫ナルヤヲ記入スヘシ

〔鳥取令〕

橘				何
橙	柚	何々		々

（注意）

一 植付段別ノ内見積段別ハ果樹園以外ニ散在スル果樹ノ株數ヲ附近ノ果樹園ニ準シ段別ヲ見積掲記スヘシ

一 樹數ハ實際結實セシモノハ勿論其ノ年收穫皆無ト雖既ニ結實ノ年齢ニ達シタルモノハ悉ク調査スヘシ

一 生柿ニハ甘柿（直ニ食シ得ルモノ）樽柿湯通シ（澁ヲ拔キテ食スルモノ）及干柿ノ原料タルモノヲ調査シ而シテ澁ノ原料タルモノハ別ニ之ヲ調査スヘシ

一 柿ハ食用ニ供スルヲ目的トシテ栽培シタルモノハ勿論堤塘、畦畔、林野等ニ散在スル自然生ノモノト雖食用ニ供スル目的ヲ以テ採取シタルモノハ總テ之ヲ合併シテ調査スヘシ

一 干柿ハ原料ヲ他郡市ヨリ輸入シタルト否トヲ問ハス別種ノモノトシテ之ヲ調査シ乾燥後ノ量目ヲ計上スヘシ

一 栗ハ果樹園ニ栽培シタルモノハ勿論堤塘、畦畔、林野等ニ於テ收穫シタルモノモ合併シテ調査スヘシ但シ果樹園以外ノ樹數ハ調査ニ及ハス

一 夏橙ハ前年秋季ヨリ其ノ年夏季ニ至ルマテニ收穫シタルモノヲ一箇年分トシテ調査スヘシ

一 何々トアル欄ヘハ前掲ノ外各地方ニテ多量生産セル果實ヲ掲クヘシ

一 年内ノ豐否及將來ノ傾向等概況ヲ備考ニ附記スヘシ

第七 綠肥用作物

大正何年　何郡市役所　何町村役場

前年種子タ秋		作付段別				收穫高				價額		單價	
		田			畑			一段歩收穫高					
苜蓿	紫雲英	町段	町段	町段	計	貫	貫	貫	計	圓	圓	圓	圓

〔鳥取令〕

| 期ニモ播ノ | 蠶豆及豌豆 | | |

第一〇 苗木ノ三（桑苗生産計表）

自大正何年七月
至同何年六月 一箇年

何郡市役所
何町村役場

【鳥取令】

備考	合計	其他果樹苗	柑橘類 計	其他柑橘類苗	夏橙苗	蜜柑苗	葡萄苗	栗苗	梅苗	枇杷苗	柿苗	苹果苗	梨苗

早 数量	早 価額	中 単価	中 数量	中 価額	晩 単価	晩 数量	晩 価額	合計 単価	合計 数量	合計 価額

備考	計	其ノ他	取木	代出	接木	實生

【鳥取令】

（注意）

一 本表ハ前年七月ヨリ其ノ年六月ニ至ル一ケ年間ニ於ケル生産額ヲ調査スヘシ

一 生産者ニ於テ自家用桑園ニ移植シタルモノハ表中ニ朱書ヲ以テ掲クヘシ

第一一 桑畑及茶畑段別

大正何年六月末日現在

何郡市役所
何町村役場

段別	桑畑												茶畑											
	早		中		晩		見積																	
	町段		町段		町段		町段		町段		町段		町段		町段		町段		町段		町段		町段	
	立木畑	刈桑畑	立木畑	刈桑畑	立木畑	刈桑畑	合計		採葉数量		採葉価額		立木畑	刈桑畑	立木畑	刈桑畑	立木畑	刈桑畑	合計		採葉数量		採葉価額	
									貫		圓										貫		圓	

春夏秋蠶兼用		合計		茶畑	備考
立木畑	刈桑畑	立木畑	刈桑畑		

段別見積段別合計

町段　町段

（注意）

一 見積段別ノ欄ニハ桑畑及茶畑以外ニ散在セル桑茶ノ株數ヲ附近ノ桑畑及茶畑ニ準シ段別ヲ見積リテ記入スヘシ

一 刈桑畑ノ採葉數量ハ摘葉ノ數量ヲ調査スヘシ

一 採葉數量ハ前年七月ヨリ其ノ年六月迄ニ屬スル事實ヲ調査スヘシ

一 桑葉又ハ茶葉ヲ採取シ得ヘキ年齢ニ達シタルモノニ就キ調査スヘキハ勿論其ノ桑畑若ハ茶畑タルニ於テハ未タ採取ノ年齢ニ達セサルモノト雖之ヲ調査スヘシ

第一二　春蠶掃立枚數及收繭高

大正何年　何郡市役所 何町村役場

市町村名	養蠶戸數	掃立枚數 縣内製	縣外製	計	收繭高 上繭	中繭	玉繭	屑繭	計	價額
		枚分	枚分	枚分	石斗	石斗	石斗	石斗	石斗	圓

| | | |

馬				豚				緬羊	山羊	備考
内種	雑種	外種	計	内種	雑種	外種	計			
1	1	1	1							

（注意）

一 本表ハ中央官廳及縣ノ所有ニ係ルモノハ之ヲ除ク

一 朝鮮牛及支那牛ノ如キハ内種トシテ調査スヘシ

一 本表ニハ乳牛ヲモ記入スヘシ

一 其ノ年中ニ出産シテ死亡シタルモノハ出産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ記入スヘシ

一 獣疫又ハ結核病ニテ死亡シ撲殺セシモノモ斃死欄ニ記入スヘシ

一 牛馬ニシテ満六ケ月以前ニ斃死又ハ撲殺シタルモノハ其ノ頭數ヲ備考ニ記入スヘシ

一 羊毛刈生ノ價額ハ出生後二箇月ノモノヲ調査シ其ノ年十一月以後ニ出生シタルモノハ満二箇月ノ價格ヲ見積リ調査スヘキモノトス從テ

「鳥取令」

満二箇月以前ニ斃死又ハ撲殺シタルモノハ價額ノ計算ヨリ之ヲ除キ其ノ頭數ヲ備考ニ記入スヘシ

一 調査地域内ノ者ノ所有ニ屬スル牛馬ニシテ調査地域外ニ於テ飼養シツツアル場合ハ其ノ飼養地ニ於テ調査記入スヘシ

第一七 家禽ノ一

大正何年六月末日現在　何郡市役所 何町村役場

	飼養戸數					成禽				雛				産卵				備考
	十羽以上五十羽未満	五十羽以上	計	羽數		價額		數量		價額		箇數		價額				
				雌	雄	計	單價		單價		單價		單價		單價			
鶏							圓		圓		圓		圓		圓			
鶩							圓		圓		圓		圓		圓			

（注意）

一 飼養戸數ハ其ノ年六月末日現在ヲ記入スヘシ

一 産卵數ハ前年七月ヨリ其ノ年六月ニ至ル一箇年間ニ付テ調査スヘシ

一 雛ハ鶏鶩トモ孵化後六箇月未満ノモノヲ記入スヘシ

一 鶏ト鶩トヲ飼養スルモノハ飼養戸數ハ主ナル一方ニ記入シ羽數價額及産卵ハ之ヲ區別シテ相當欄ニ記入スヘシ

一 飼養ノ概況並五十羽以上飼養町村名ヲ備考ニ附記スヘシ

第一八 家禽ノ二

自大正何年七月 至大正何年六月　何郡市役所 何町村役場

	年内生産				年内食用トシテ殺シタルモノ			
	數量		價額		數量		價額	
	羽		圓	單價	羽		圓	單價
鶏				圓				圓
鶩				圓				圓

第一九 乳肉製品

大正何年　何郡市役所 何町村役場

乳製品						肉製品				
製造戸數	煉乳	バター	人造バター	其ノ他	計	製造戸數	ハム	ベーコン	其ノ他
戸	數量 斤	價額 圓	數量 斤	價額 圓	數量 斤	價額 圓	數量 斤	價額 圓	數量 斤	價額 圓

單價主産地

備考

（注意）
一 年内生産ノ欄ニハ鶏ニ在リテハ孵化後三ケ月以上鶩ニ在リテハ同二ケ月以上經過セシモノニ就キ調査スヘシ
一 年内ノ生産ニシテ其ノ年ニ食用トナリタルモノハ双方ノ欄ニ記入スヘシ

【鳥取令】

番號	名	報告期限	
第一	商業者戸口	翌年三月十日	翌年四月十日
第二	工業者戸口	同一月十日	同一月三十一日
第三	蠶絲類及眞綿	同二月二十八日	同三月三十一日
第四	絹絲紡績	同	同
第五	綿絲紡績	同	同
第六	麻絲紡績	同	同
第七	織物ノ一	翌年一月三十一日	翌年二月二十八日
第八	織物ノ二	同	同
第九	織物ノ三	同	同
第一〇	染物定期調査	同	同
第一一	莫大小	翌年二月二十八日	翌年三月三十一日

商工業　　町村　郡　市

計

備考

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在ヲ記入スヘシ
一 「人造バター」トハ乳脂以外ノ動植物脂肪ニ若干ノ乳脂ヲ混シ又ハ之ヲ混セスシテ製造シ其ノ外觀恰モ「バター」狀ヲ呈スルモノヲ謂フ
一 乳製品ノ其ノ他ニハ「チース」、乳粉、ヨーグルト、ケフキール等ヲ肉製品ノ其ノ他ニハ「ソーセージ」、ショルダー等ヲ記入スヘシ
一 一斤ハ百六十匁ナルモ慣行ニ依リ百二十匁トシテ計算シタルトキハ其ノ旨ヲ備考トシテ記入スヘシ

【鳥取令】

第一二	陶磁器	同	翌年二月二十八日
第一三	煉瓦、瓦及土管	同	翌年三月三十一日
第一四	漆器	同	同
第一五	畳表、莫蓙及花莚	同	同
第一六	工業用藥品	同	同
第一七	漆液	同	同
第一八	油類	同	同
第一九	木蠟	同	同
第二〇	蠟燭	同	同
第二一	製藍	其ノ年八月三十一日	同
第二二	薄荷	翌年二月二十八日	翌年三月三十一日
第二三	石鹼	同	同
第二四	和紙	同	同
第二五	西洋紙	同	同
第二六	機械製麥粉	其ノ年七月十日	其ノ年八月五日
第二七	澱粉	同	同 十月三十日
第二八	製茶	同 九月五日	翌年五月五日
第二九	寒天	翌年四月十日	同
第三〇	罐詰	同 二月二十八日	同 三月三十一日
第三一	燐寸	同	同
第三二	製革	同	同
第三三	麥稈、綱木及麻眞田	同	同
第三四	時計	同	同

第一 商業者戶口

大正何年十二月末日現在

何郡市役所
何町村役場

商業ヲ主トスルモノ 戶數	商業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 男	商業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 女	商業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 男	商業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 女	商業ヲ從トスルモノ 戶數	商業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 男	商業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 女	商業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 男	商業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 女	計 戶數	計 人口 執業者 男	計 人口 執業者 女	計 人口 從屬者 男	計 人口 從屬者 女

第三五	硝子製品	同	翌年三月十日
第三六	刷子刷毛	同	同
第三七	帽子	同	同
第三八	鈕釦	同	同
第三九	度量衡器	同	同
第四〇	寶藥	同	翌年四月十日
第四一	酢及味噌	同	同 三月十日
第四二	菓子及飴	同	同 三月十日
第四三	各種工產物ノ一	同	同 三月三十一日
第四四	各種工產物ノ二	同	同 四月十日
第四五	會社	同	同
第四六	工場	同	同
第四七	石炭消費高	同	同
第四八	石材製品	同	同
第四九	物價	同	同
第五〇	賃錢	同	同
第五一	諸車	同	同 五月三十一日
第五二	小船	同	同

商業者	備考

（注意）
一 年末現在ノ現住戸數ニ就キ實際ノ從業者ヲ調査掲記スヘシ
一 商業ヲ主トスルモノノ欄ニハ商業ニ依リ生計ヲ立ツルモノ商業ヲ從トスルモノノ欄ニハ他ニ本業ヲ有シ其ノ傍商業ニ從事スルモノヲ掲記スヘシ
一 執業者ノ欄ニハ商業ニ從事スル家族、從屬者ノ欄ニハ商業ニ從事セサル家族ヲ掲記スヘシ

第二　工業者戸口

大正何年十二月末日現在　何郡市役所 何町村役場

工業者	工業ヲ主トスルモノ 戸數	工業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 男	工業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 女	工業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 男	工業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 女	工業ヲ從トスルモノ 戸數	工業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 男	工業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 女	工業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 男	工業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 女	計 戸數	計 人口 執業者 男	計 人口 執業者 女	計 人口 從屬者 男	計 人口 從屬者 女	備考

（注意）
一 年末現在ノ現住戸數ニ就キ實際ノ從業者ヲ調査掲記スヘシ
一 工業ヲ主トスルモノノ欄ニハ工業ニ依リ生計ヲ立ツルモノ工業ヲ從トスルモノノ欄ニハ他ニ本業ヲ有シ其ノ傍工業ニ從事スルモノヲ掲記スヘシ
一 執業者ノ欄ニハ工業ニ從事スル家族、從屬者ノ欄ニハ工業ニ從事セサル家族ヲ掲記スヘシ

第三　蠶絲類及眞綿

大正何年　何郡市役所 何町村役場

〔鳥取令〕

	器械絲	座繰絲	足踏絲	玉絲	計
製造戸數 十釜未滿					
十釜以上五十釜未滿					
五十釜以上百釜未滿					
百釜以上					
計					
職工 男					
職工 女					
職工 計					
繰絲釜數					
生絲 數量 貫					
生絲 價額 圓					
生絲 一貫ニ付價格 錢					
屑物 駄斗絲 數量 貫					
屑物 駄斗絲 價額 圓					
屑物 駄斗絲 一貫ニ付價格 錢					
屑物 生皮苧 數量 貫					
屑物 生皮苧 價額 圓					
屑物 生皮苧 一貫ニ付價格 錢					
屑物 其ノ他 數量 貫					
屑物 其ノ他 價額 圓					
屑物 計 數量 貫					
屑物 計 價額 圓					
合計					

〔鳥取令〕

原料繭		眞綿	備考
春蠶	夏蠶	秋蠶	計	製造戸數	量	價額	一貫ニ付價格
					貫	圓	錢

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年執業シタル戸數ヲ記入スヘシ

一 製造戸數ハ特ニ設ケタル製造場タルト自宅タルトヲ問ハス總テ製造ニ從事スル場所ヲ謂フ而シテ事業主一人ニシテ數箇ノ製造場ヲ有スル場合ニハ各別ニ之ヲ計算シ二戸若ハ三戸ト計算スヘシ

一 製造戸數ノ調査ニ就キ十釜未滿、十釜以上五十釜未滿等ノ區別ヲナスニハ設備ノ釜數ニ拘ハラス實際使用シタル繰絲釜數ニ依リ調査スヘキモノトス從テ一箇ノ釜ニテ繭ヲ煑之ヲ索緒釜ニ移シテ緒ヲ求メ更ニ之ヲ繰絲釜ニ移シテ繰絲スルモノノ如キハ最後ノ繰絲釜ノミヲ數フヘキモノトス繰絲釜數ノ調査ニ就テモ亦同シ

一 器械絲トハ原動力卽チ汽力、水力、電力等ニ依リテ連接セル製絲器械ヲ運轉シテ繰絲シタルモノヲ謂フ但シ人力ヲ用ヰ右ノ器械ヲ運轉シ繰絲シタルモノヲ器械絲トシテ調査スヘシ

一 座繰絲トハ座繰器具及從來ノ手繰等ニテ繰絲シタルモノヲ謂フ

一 玉絲トハ器械ヲ用フルト座繰ヲ用フルトヲ問ハス凡テ玉繭ヲ繰絲シタルモノヲ謂フ而シテ玉絲ハ總テ同欄ニ記入スヘシ

一 生皮苧トハ繰絲ニ際シ繭ヨリ手繰リ取リタル緒絲ヲ謂ヒ熨斗絲トハ生皮苧ヲ引延シタルモノヲ謂フ

一 屑物ヲ眞綿ノ原料ニ供セシ場合ニ於テモ其ノ供用セシ數量ヲ「其ノ他」ノ欄ヨリ控除スルヲ要セス

一 其ノ他トハ揚リ繭、蛹襯及練綿ノ總稱ナリ

〔鳥取令〕

一 原料繭ノ內縣外ヨリ輸入セシモノハ表中朱書スヘシ

一 器械製絲場ニシテ座繰ヲ兼ネ又ハ座繰製絲場ニシテ玉絲製絲ヲ兼ヌル如キモノノ戸數ハ之ヲ其ノ主ナル部ニ算入シ其ノ旨ヲ備考トシテ記入シ製絲ハ器械、座繰、足踏、玉絲ノ四種ニ分チ各其ノ部ニ算入スヘシ

第四 絹絲紡績

大正何年 何郡市役所 何町村役場

紡績場名	拂込資本金又ハ出資額	原動力種類	機關數	平均一日使用實馬力	石炭消費高	職工 男	職工 女	職工 計	職工賃錢 男	職工賃錢 女	一箇年間就業日數	平均一日就業時間
	圓				斤				錢	錢		

（注意）
一 紡績場、拂込資本金、出資額及機關數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 拂込資本金又ハ出資額ハ本社若ハ本工場ニ記入シ支店若ハ分工場ニ記入スヘカラス
一 本表ハ拂込資本又ハ出資額一萬圓以上ノモノニ限リ場名ヲ記入シ一萬圓未滿ノモノハ一括シテ記入スヘシ
一 賃錢ハ普通職工ノ一人一日ノ平均額ヲ記入スヘシ

第五 綿絲紡績

大正何年 何郡市役所 何町村役場

紡績場名	拂込資本金又ハ出資額	原動力種類	機關數	平均一日使用實馬力	石炭消費高	職工 男	職工 女	職工 計	職工賃錢 男	職工賃錢 女
	圓				斤				錢	錢
合計										

紡績場名	一箇年間就業日數	平均一日就業日數	平均一日運轉錘數 竪針	斜針	計	原料綿絲製造高 竪針	斜針	計	主要製絲番數	一梱ニ付價格
			本	本	本	貫	貫	貫	手	錢
合計										

（鳥取令）

備考

（注意）
一 紡績場、拂込資本金、出資額及機關數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 拂込資本金又ハ出資額ハ本社若ハ本工場ニ記入シ支店若ハ分工場ニ記入スヘカラス
一 本表ハ拂込資本又ハ出資額一萬圓以上ノモノニ限リ場名ヲ記入シ一萬圓未滿ノモノハ一括シテ記入スヘシ
一 賃錢ハ普通職工ノ一人一日ノ平均額ヲ記入スヘシ
一 一梱ハ四十八貫トス

第六 麻絲紡績

大正何年 何郡市役所 何町村役場

紡績場名	拂込資本金又ハ出資額	原動力種類	機關數	平均一日使用實馬力	石炭消費高	職工 男	職工 女	職工 計	職工賃錢 男	職工賃錢 女
	圓				斤				錢	錢
合計										

紡績場名	一就業日數	一日就業時間	平均一日運轉錘數	原料需要高 亞麻	苧麻	大麻	黃麻	麻絲製造高	主要製絲番數	一貫ニ付價格
				貫	貫	貫	貫	貫	手	錢
合計										

（鳥取令）

合計	備考

（注意）

一 紡績場、拂込資本金、出資額及機關數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 拂込資本金又ハ出資額ハ本社若ハ本工場ニ記入シ支店若ハ分工場ニ記入スヘカラス

一 本表ハ拂込資本金又ハ出資額一萬圓以上ノモノニ限リ場名ヲ記入シ一萬圓未滿ノモノハ一括シテ記入スヘシ

一 賃錢ハ普通職工ノ一人一日ノ平均額ヲ記入スヘシ

一 本様式ニ定ムルモノ以外ノ原料ヲ用ヰタル場合ニ於テハ其ノ名稱及數量ヲ備考トシテ記入スヘシ

第七 織物ノ一

大正何年

何郡市役所
何町村役場

機業戸數 職工十人以上ノモノ	機業戸數 職工十人未滿ノモノ	機臺數 力織機	機臺數 足踏機	機臺數 手織機	機臺數 計	機臺數 男	織元賃織計	力織機所在地

〔鳥取令〕

職工 女	職工 計		數量	價額	單價	主産地
		絹 縮緬類	反	圓	圓	
		絹 白絹類（羽二重、斜子、平絹、紹ヲ含ム）				
		絹 無地及縞絲織、紬、太織、著尺物類（透綾、海氣ヲ含ム）				
		絹 無地及縞廣幅物類	碼			
		絹織物 リボン				
		絹織物 男帶地類	本			
		絹織物 女帶地類				
		絹織物 其ノ他				
		絹織物 計				
		綿 繻子類	反			
		綿 絹縮緬類				
		綿 絹入縞類（二子其ノ他絲入、木綿類、袴地等）				
		交織 男帶地類	本			
		交織 女帶・地類				

〔鳥取令〕

| 物 | | 綿織物 | | |

第八 織物ノ二

大正何年　何郡市役所 何町村役場

機業戸數 職工十人以上ノモノ	機業戸數 職工十人未滿ノモノ	職工 男	職工 女	職工 計	機臺數 力織機	機臺數 手織機	毛其ノ織交物及物 モスリン	毛其ノ織交物及物 フランネル類	毛其ノ織交物及物 セルヂ類	毛其ノ織交物及物 毛布	毛其ノ織交物及物 羅紗	毛其ノ織交物及物 其ノ他	毛其ノ織交物及物 計	數量 碼	價額 圓	單價 圓	主産地	力織機所在地	備考
										斤									

〔鳥取令〕

（注意）一 織物ノ一ノ注意事項ハ本表ニ之ヲ準用ス

第九 織物ノ三

大正何年　何郡市役所 何町村役場

機業戸數 職工十人以上ノモノ	機業戸數 職工十人未滿ノモノ	職工 男	職工 女	職工 計	機臺數 力織機	機臺數 手織機	敷物 緞通 數量 疊	敷物 緞通 價額 圓	敷物 緞通 單價 圓	敷物 緞通 主産地	敷物 由多加織其ノ他	敷物 計	備考

〔鳥取令〕

（注意）一 織物ノ一ノ注意事項ハ本表ニ之ヲ準用ス

第一〇 染物定期調査

大正何年

何郡市役所
何町村役場

染物戸数	職工 男	職工 女	職工 計		数量	染賃	単価
						圓	圓
綿 無地物							
綿 機械製 捺染物 其他							
綿 捺染物							
綿 染絲					貫		
綿 其ノ他					反		
絹 無地物					反		
絹 染絲物					貫		
絹 捺染物							
絹 其ノ他					反		
絲 染絲					貫		
絲 其ノ他					反		
毛 無地物							
毛 捺染物							

〔鳥取令〕

染絲	其ノ他	其ノ他絲	捺染物	無地物	計	其ノ他絲	捺染物	無地物	其ノ他	備考
貫	反	貫			一	反	貫			

（注意）

一 本表ハ大正六年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後毎三年ニ調査報告スヘシ

一 染物戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ノ記入スヘシ

一 「絞リ」ハ染物トシテ調査シ各相當大分類中ノ「其ノ他」ノ欄ニ記入スヘシ

一 染直シハ調査ヲ要セス

第一一 莫大小

大正何年

何郡市役所
何町村役場

〔鳥取令〕

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	價額	單價	主產地	綿 シャツ及ヅボン下	綿 靴下	綿 手袋	綿 其ノ他	綿 計	毛及毛綿 シャツ及ヅボン下	毛及毛綿 靴下	毛及毛綿 手袋	毛及毛綿 其ノ他	毛及毛綿 計	其 シャツ及ヅボン下	其 靴下
					打	圓	圓												

【鳥取會】

他 手袋	他 其ノ他	他 計	合計	備考

【鳥取會】

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 製造戸數及職工ハ全工、編立、毛撰、裁縫、仕立トモ之ヲ調査スヘシ

第一二 陶磁器

大正何年

何郡市役所
何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	窯數 本燒窯 窯數	窯數 本燒窯 室數	窯數 錦窯	窯數 其ノ他

	價額	主産地
製造品 家具及裝飾品	圓	
飲食器		
工業用品		
玩具		
其ノ他		
計		
備考		

（注意）

一 製造戸數及窯數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 本表ハ繪附ノミニ係ルモノヲモ調査スヘシ

一 陶器素地燒窯及釉燒窯ハ本燒窯中ニ算入スヘシ

一 本燒窯室數ノ計算ハ器物ノ燒成ニ直接使用スルモノニ限ルモノトス例ヘハ「ドーギ」及「捨テ間」ハ室數ニ加フヘカラス

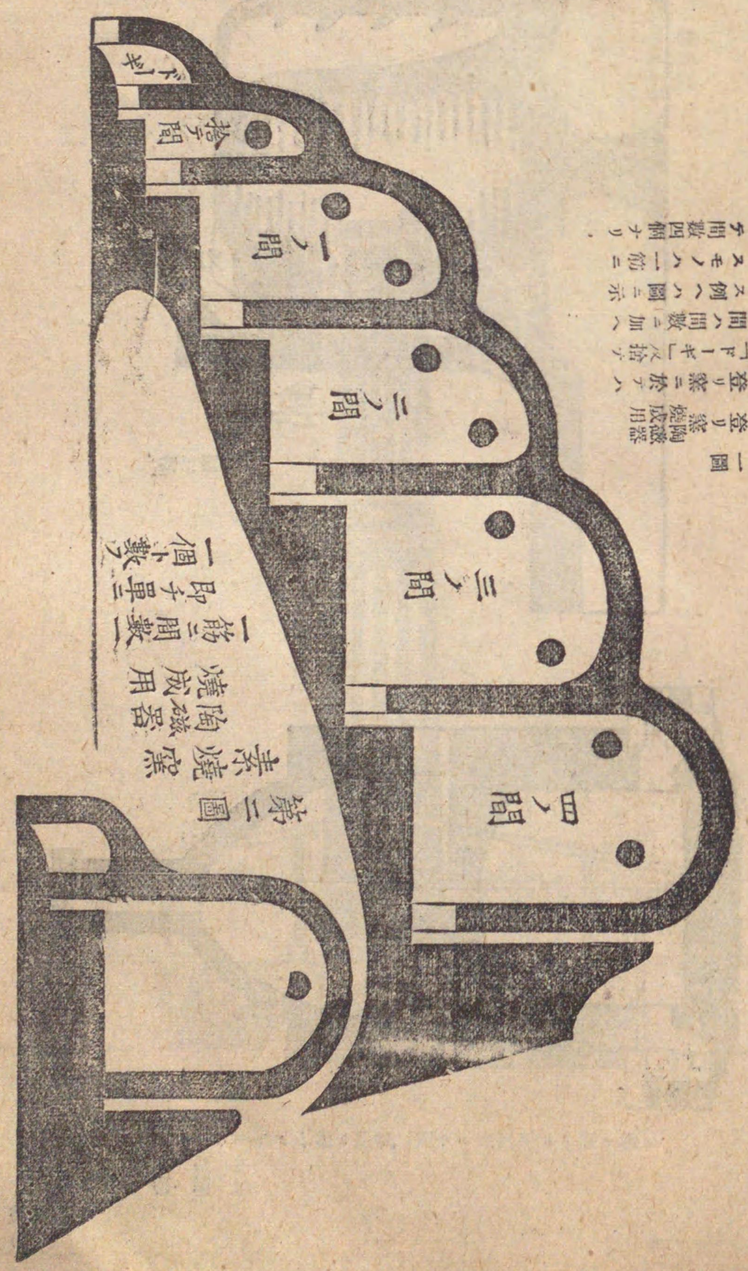
一 錦窯トハ主トシテ繪附ニ使用スルモノヲ謂フ

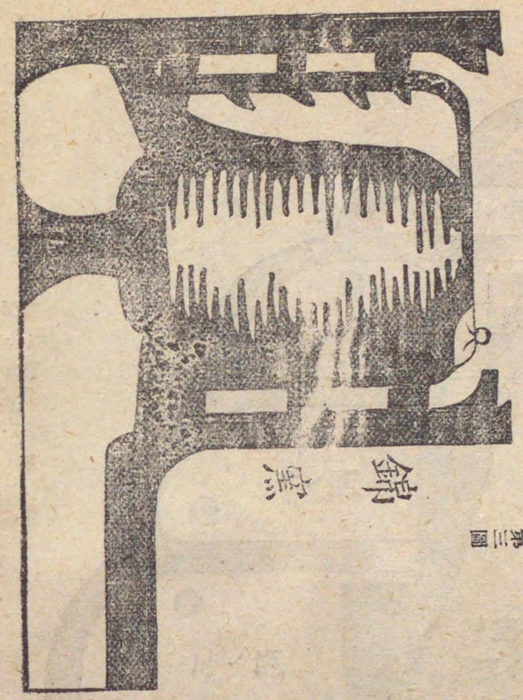
一 素燒窯ハ窯數ノ「其ノ他」ニ記入スヘシ

一 炮烙、朝顔鉢類ノ如キ素燒品ハ本表ニ加算スヘシ

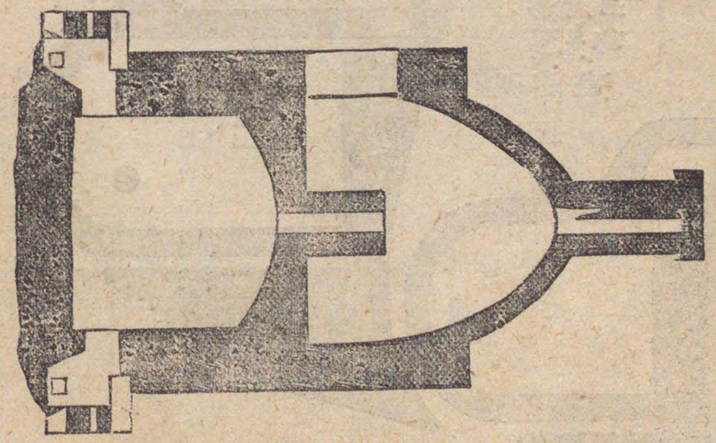
一 工業用品ノ欄ニハ電氣ノ碍子其ノ他ヲ記入スヘシ

一 博多人形類ハ本表ニ算入スヘカラス





第三圖



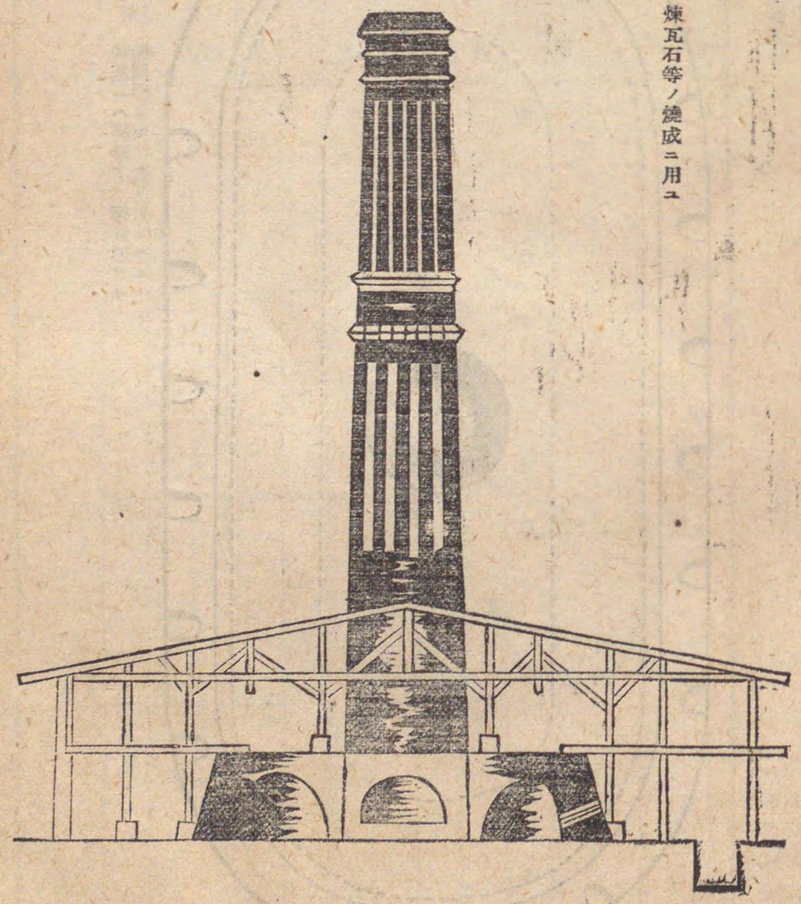
第四圖

此立圖ノ如キモノニアリテハ一筋ニ四窯一箇ナリ是又一箇ト數フ

〔鳥取舍〕

第五圖

ホフマン式輪窯 煉瓦石等ノ燒成ニ用ユ



〔鳥取舍〕

第一三　煉瓦、瓦及土管

大正何年

何何町郡村市役役場所

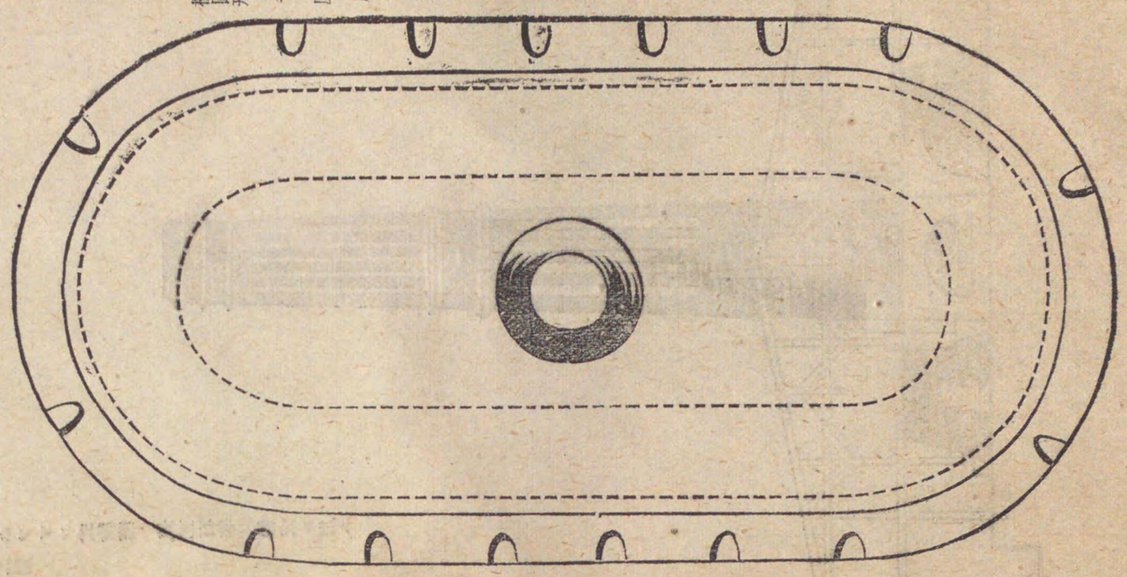
〔鳥取令〕

備考	土管	瓦						煉瓦				瓦	土管	煉瓦		
		計	其ノ他瓦屋根		計	其ノ他通普跟附耐火								製造戸數		
								數量個								
								價額圓							男職工	
								單價圓							女職工	
								主産地							計	

〔鳥取令〕

ホフマン式輪窯平面圖

楕輪圓窯ニハ圓形ノ廣アリ円楕圓形ヒラルアリ



〔鳥取令〕

（注意）

一　製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一　煉瓦、瓦又ハ土管ヲ併セ製造スルモノハ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ記入シ數量及價額ハ之ヲ區別シテ各相當欄ニ記入スヘシ

第一四　漆器

大正何年　何郡市役所　何町村役場

製造戸數	職工			製造品				備考
	男	女	計	家具及裝飾品	飲食器	其ノ他	計	
				價額 圓				
				主産地				

（注意）

一　製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一　本表ハ漆ヲ塗リ普通漆器ト稱シ得ヘキモノハ總テ之ヲ調査スヘシ

第一五　疊表、莫蓙及花莚

大正何年　何郡市役所　何町村役場

製造戸數	職工			疊表			莫蓙及花莚			備考
	男	女	計	備後	琉球	計	莫蓙及花莚	四十碼物	其ノ他	計
				枚				本	枚	
				數量 圓						
				額 圓						
				單價 圓						
				主産地						

（注意）

一　製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一　疊表、莫蓙及花莚ヲ併セ製造スルモノハ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ記入シ數量及價額ハ各相當欄ニ記入スヘシ

一　疊表ハ丸藺（備後藺又ハ單ニ藺ト謂フ）若ハ三角藺（宝苡又ハ七島藺ト謂フ）ヲ以テ製織セルモノニ限リ調査スヘシ

備後表ハ其ノ名稱ノ何タルヲ問ハス丸藺ヲ以テ製織セル總テノ疊表ヲ記入スヘシ

琉球表ハ其ノ名稱ノ何タルヲ問ハス三角藺ヲ以テ製織セル總テノ疊表ヲ記入スヘシ

一　製造元ト賃業者トノ所在地ヲ異ニスル場合ニ在リテハ賃業者ノ手ニ成リタルモノ數量及價額ハ製造元所屬ノ地方ニ於テ調査記入シ戸數及職工數ハ賃業者所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘシ

第一六 工業用藥品

大正何年　何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	價額	單價	主産地
				封度	圓	圓	
硫酸							
鹽酸							
硝酸							
硫酸曹達（硝）							
炭酸曹達							
苛性曹達							
沃度							
沃度加里							
鹽酸加里							
鹽化加里							
明礬（硫酸礬土（アルミニウム）ヲ含ム）							

〔鳥取合〕

硫酸安母尼亞	醋酸	アセトン	晒粉	木精	計	備考
				リットル		

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 「リットル」ハ五合五勺ナリ

第一七 漆液

大正何年　何郡市役所 何町村役場

製造戸數	數量	價額	單價	主産地
	貫	圓	圓	
正味（幹搔）				
瀝濕（枝搔）				
雜液				
計				

〔鳥取合〕

備考

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年八月末日現在ヲ記入スヘシ
一 本表ハ製造所カ搔取人若ハ仲買人ヨリ買取リタルモノ悉皆ヲ調査スヘシ
一 搔取人自身カ製造ハル場合ニ於テモ之ヲ調査スヘシ

第一八 油類

大正何年　何郡市役所　何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計		數量	價額	單價	主産地
				菜種油	石	圓	圓	
				胡麻油				
				荏油				
				綿實油				
				亞麻仁油				
				椿油				

〔鳥取令〕

桐油	櫨油	大豆油	落花生油	綿子油	其ノ他	計	松根油	松脂油	クロモジ油	コブシ油	計	菜種油粕	大豆油粕	其他油粕	備考
防腐油							揮發油								
							斤					貫			

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 其ノ他ノ欄ニハ植物性脂肪油ニ限リ記入スヘシ
一 農家ニ於テ自家用ノ爲僅ニ二三升ヲ製造スルモノノ如キハ調査ニ及ハス

第一九 木蠟

大正何年 何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	生蠟 數量 貫	生蠟 額 圓	生蠟 單價 圓	生蠟 主産地	晒蠟 數量 貫	晒蠟 額 圓	晒蠟 單價 圓	晒蠟 主産地	備考

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 生蠟ノ欄ニハ晒蠟ノ原料ニ供シタルモノヲモ記入スヘシ

第二〇 蠟燭

大正何年 何郡市役所 何町村役場

製造戸數	日本型 數量 貫	日本型 額 圓	日本型 單價 圓	日本型 主産地	西洋型 數量 斤	西洋型 額 圓	西洋型 單價 圓	西洋型 主産地	計	備考

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

第二一 製藍

自大正何年七月 至同何年六月 一箇年 何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	スクモ藍 數量 貫	スクモ藍 額 圓	スクモ藍 單價 圓	スクモ藍 主産地

藍玉	備考

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 藥トハ藍葉若ハ本葉（藍葉ノ下部ニ附著スルモノ）ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ
一 藍玉ハ藥ノ臼ニテ搗キ丸形若ハ角形等ニ固メタルモノ即チ藥ヲ精製シタルモノヲ謂フ
一 藥ノ欄ニハ藍玉ノ原料ニ供シタルモノヲモ記入スヘシ

第二二 薄荷 大正何年 何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	取卸薄荷 數量	取卸薄荷 價額	取卸薄荷 單價	取卸薄荷 主産地	薄荷油	薄荷腦	備考
				斤	圓	圓				

（鳥取「ロ」）

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 取卸薄荷ハ薄荷草ヲ蒸溜器ニ掛ケ取リタル儘ノ液ニシテ薄荷腦ヲ含メルモノヲ謂ヒ薄荷油ハ之ヨリ腦ヲ取リ去リタルモノヲ謂フ
一 取卸薄荷ハ其ノ儘使用スルモノト薄荷油、薄荷腦製造ノ原料タルモノトヲ問ハス合算記入スヘシ

第二三 石鹼 大正何年 何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	化粧用 數量	化粧用 價額	化粧用 單價	化粧用 主産地	工業用	洗濯用其ノ他	計	備考
				打	圓	圓					

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

第二四 和紙 大正何年 何郡市役所 何町村役場

（鳥取「ロ」）

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	槽數	抄紙機械數 数量	抄紙機械數 価額	抄紙機械數 單價	抄紙機械數 主産地	備考
美濃紙					締	圓	圓		
半紙									
半切紙					束				
鳥ノ子紙					斤				
雁皮及薄葉紙									
吉野紙及典具帖									
東洋紙									
漉返									
其ノ他									
計					1			1	

〔鳥取合〕

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 美濃紙ハ四十八枚半紙ハ二十枚半切紙ハ九十六枚ヲ以テ一帖トシ各十帖ヲ以テ一束トス

一 美濃紙ハ五束半紙ハ十束ヲ以テ一締トス

一 美濃紙ハ書院紙、内山紙、信濃紙等美濃判製紙一切ヲ含ム

第二五 西洋紙 大正何年 何郡市役所 何町村役場

製造場名	地坪及建物	本金又ハ出資	原動力 種類	機關數	平均一日使用實馬力	石炭消費高	職工 男	職工 女	職工 計	一箇年平均一日就業時間	原料需要高 繊維	原料需要高 木質繊維	原料需要高 亞硫酸曹達不純木質原質	原料需要高 碎木原質	原料需要高 稲藁	原料需要高 其ノ他
計		圓				斤					貫	封度	封度	封度	貫	貫

製造場名	製造高 印刷業紙 数量	印刷業紙 單價	ボール（板紙） 数量	ボール（板紙） 單價	煙草用紙 数量	煙草用紙 單價	燐寸用紙 数量	燐寸用紙 單價	連史紙 数量	連史紙 單價	其ノ他 数量	其ノ他 單價	價額計
計	封度	圓	封度	圓	封度	圓	封度	圓	封度	圓	封度	圓	圓

〔鳥取合〕

備考

（注意）

一 製造場、拂込資本金、出資額及機關數ハ其ノ年十二月末日現在、職工、平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 拂込資本金又ハ出資額ハ本社若ハ本工場ニ記入シ支店若ハ分工場ニ記入スヘカラス

一 煙草用紙ハ口紙ヲモ調査スヘシ

一 煙草包裝紙ハ「其ノ他」ノ欄ニ記入スヘシ

一 石炭消費高ハ動力用ト否トヲ問ハス一箇年間ニ消費セシ總量ヲ記入スヘシ

第二六 機械製麥粉

大正何年 何郡市役所 何町村役場

製造戸數			職工			原料需要高						製造高			主産地
			男	女	計	內			外						
						數量	價額	單價	數量	價額	單價	數量	價額	單價	
						石	圓	圓	石	圓	圓	斤	圓	圓	

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在ヲ記入スヘシ

一 機械製麥粉ハ手挽ニアラサルモノハ悉皆調査スヘキモノナルヲ以テ精巧ナル機械ニテ製造スルモノハ勿論牛馬力若ハ水車等ニテ製粉スルモノハ漏レナク調査スヘシ

一 麥粉ハ精製シタル一番粉ノミナラス二番粉、三番粉ヲモ調査スヘシ

〔鳥取令〕

第二七 澱粉

自大正何年七月 至同何年六月一箇年 何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工			原料使用高									製造高			備考
	男	女	計	馬鈴薯	甘藷	蕨	葛	片栗	蕎麥	其他	計		數量	價額	單價	
				貫									斤	圓	圓	

〔鳥取令〕

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年六月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 食用及工業用ニ供スルモノヲ調査スヘシ

第二八 製茶

大正何年

何郡市役所
何町村役場

製造戸數	數量 貫	價額 圓	一貫ニ付價格 銭	主産地
玉露				
煎茶				
番茶				
烏龍茶				
紅茶				
其他				
計				
煎茶粉				
紅茶粉				
烏龍茶粉				
計				
備考				

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ季節ニ於テ執業シタル戸數ヲ記入スヘシ
一 玉露トハ覆ヲ掛ケタル畑ヨリ敢メタル茶葉ヲ蒸熱シ之ヲ揉捻乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ
一 煎茶トハ普通ノ茶葉ヲ蒸熱シ之ヲ揉捻乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ
一 紅茶トハ普通ノ茶葉ヲ萎凋セシメ揉捻シ醗酵セシメタル後乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ
一 烏龍茶トハ普通ノ茶葉ヲ萎凋セシメ攪拌シテ放香ヲ促シタル後釜煮揉捻乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ
一 番茶トハ前四目ニ屬セサル劣等ノ製茶即チ古葉ヲ用ヰテ製シタル茶、籤出シ茶等ヲ云フ
一 本表各目外ノ製茶即チ碾茶、磚茶ノ如キハ其ノ數量及價額ヲ備考トシテ記入スヘシ
一 玉露粉ハ煎茶粉ニ合算記入スヘシ

第二九 製塩

自大正何年四月一日
至同何年三月一箇年

何郡市役所
何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量 貫	價額 圓	單價 圓	主産地
細塩天							
角塩天							
計							
備考							

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ季節ニ於テ執業シタル戸數ヲ記入スヘシ
一 職工ハ製造期間ニ於ケル平均一日使用數ヲ記入スヘシ

第三〇 鑵詰 大正何年 何郡市役所 何町村役場

| 製造戸數 | 職工 | | |

一 小箱十二箇ヲ一打トシテ計算スヘシ

第三二 製革

大正何年　何郡市役所　何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	額	單價	主産地
				牛革 枚	圓	圓	
				馬革			
				其ノ他			
			計				
備考							

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 本表ハ獸革ニ限リ記入スヘシ

一 枚數ハ一頭分ヲ以テ一枚ニ計算スヘシ

第三三 麥稈、經木及麻眞田

大正何年　何郡市役所　何町村役場

〔鳥取合〕

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	額	單價	主産地
				麥稈眞田 束	圓	圓	
				經木眞田			
				麥稈經木交眞田			
				マニラ麻眞田			
			計				
備考							

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 各種眞田ノ一束ハ六十碼ヲ以テ計算スヘシ

一 製造元即チ原料供給者ト賃業者トノ所在地ヲ異ニスル場合ニ在リテハ賃業者ノ手ニ成リタルモノノ數量及價額ハ製造元所屬ノ地方ニ於テ調査記入シ戸數及職工賃業者所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘキモノトス

一 生徒カ學業ノ餘暇ニ於テ又ハ老幼婦女カ家業ノ閑暇ニ於テ他ヨリ原料ノ供給ヲ受ケテ賃編ヲナス場合ノ如キハ其ノ戸數及人員ヲ調査スルニ及ハス但シ專ラ之ニ從事シ賃業者ト見做スヘキ者ニ在リテハ其ノ戸數及職工ヲ調査スヘシ

一 前項ノ場合ニ於テハ其ノ製造品ノ數量及價額ハ原料供給者所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘシ

〔鳥取合〕

第三四 時計

大正何年　何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工				數量	價額	單價	主產地	備考
	男	女	計						
				置時計	箇	圓	圓		
				掛時計					
				懷中時計					
				計					

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

第三五 硝子製品

大正何年　何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工				數量	價額	單價	主產地	備考
	男	女	計						
				槽窯					
				坩堝窯 瓦斯窯 窯數					
				坩堝窯 瓦斯窯 坩堝數					
				坩堝窯 直火窯 窯數					
				坩堝窯 直火窯 坩堝數					
				壜類					
				食器類					
				燈火用品					
				光珠					
				板硝子					
				其ノ他					
				計					

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

第三六 刷子及刷毛

大正何年　何郡市役所 何町村役場

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	額	單價	主産地
齒磨用				打	圓	圓	
理髮用							
糊附用							
其ノ他							
計							
備考							

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

第三七 帽子

大正何年　何郡市役所 何町村役場

〔鳥取令〕

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	額	單價	主産地
フエルト製				打	圓	圓	
羅紗又ハ「セルヂ」製							
模造パナマ製							
麥稈製							
其ノ他							
計							
備考							

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 フエルト帽子トハ軟毛ヲ壓迫シ製造シタルモノヲ謂フ

第三八 釦

大正何年　何郡市役所 何町村役場

〔鳥取令〕

職工			金屬	貝殼	甲角其ノ他	計	備考
男	女	計	數量				
			額				
			單價				
			圓				
			圓				
			主產地				

（注意）

一 製造戶數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一 カフス鈕釦ハ一組ヲ一箇トシテ計算スヘシ

一 一哥（グロス）ハ十二打即チ百四十四箇トス

第三九 度量衡器

大正何年 何郡市役所 何町村役場

| 度量衡器 | | | |

| 合計 | | |

菓子	飴	備考
圓	圓	

製造戸數 職工	原料使用高					
男	女	計	米	麥	其他ノ	
			數量	價額	數量	價額	價額
			石	圓	石	圓	圓

七寶	金物製					
	銅器、青銅器及眞鍮器	鐵製鍋釜及鐵瓶類	刄物類	琺瑯鐵器	金物細工	鐵葉細工（玩具品ヲ除ク）	アンチモニー製品
1	1	1	1	1	1	1	1
圓							
1	1	1	1	1	1	1	1

（注意）一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

第四三 各種工產物ノ一

大正何年 何郡市役所 何町村役場

〔鳥取令〕

| 品 | 絕緣電線 | 木製 | | | | | | |

| 品 | | |

骸炭	備考
斤	

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ次表亦同シ

一 二種以上ヲ製造スルモノハ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ記入シ數量及價額ハ之ヲ區別シテ記入スヘシ次表亦同シ

一 「ドローンウオーク」（絲拔細工）ハ白地ノ麻布又ハ綿麻交織物ノ絲ヲ拔キ取リ之ニ縫取リヲ施シタルモノニテ卓子掛、皿敷、椅子掛等ニ用ヰルモノヲ謂フ但シ賃業ニ屬スルモノハ表中×印ヲ附シ區別スヘシ

一 「パテンレース」ハ白地ノ麻布又ハ絲麻交織物ノ表面ニ適當ノ意匠ニ依リテ細キ特殊ノ「レース」紐ヲ縫付ケタルモノニテ卓子掛、皿敷、椅子掛等ニ用ヰルモノヲ謂フ但シ賃業ニ屬スルモノハ表中×印ヲ附シ區別スヘシ

一 竹製品ハ竹ノミヲ以テ製造シタルモノハ勿論、竹木等ヲ以テ製造シタルモノト雖主トシテ竹ヲ用ヰタル場合ニハ本表ニ記入スヘシ

一 自家用製品ハ調査ヲ要セス次表亦同シ

第四四　各種工產物ノ二　　大正何年　　何郡市役所 何町村役場

	製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	價額	單價	主產地
					隻	圓	圓	
船 蒸汽船								
西洋形風帆船								
日本形帆船								
漁船								
船 バッテーラ								
船 小廻船其他								

〔鳥取令〕

	計	車 人力車	車 荷車	車 牛馬荷車	車 馬車	車 乳母車	車 計	履物類 靴	履物類 足袋	履物類 木履	履物類 下駄	履物類 下駄表	履物類 鼻緒其他	履物類 計	曲輪物類	洋傘・柄傘
		輛						足							個	本
	一						一							一		

提灯	蠶網	海砂	農具									屏風	笠				
		箸松細工	萬石	唐箕	箕	除草器	鋤	鞍	稻扱	其他	計		竹皮笠	菅笠	檜笠	其他	
個	枚												個	個			

貝灰	石灰	棕櫚製品					藁製品									計
		計	其ノ他	棕櫚綱	棕櫚縄	棕櫚箒	計	其他	叠床	草鞋	草履	養蠶莚	普通莚	叺	縄	
貫				枚	束	本			畳		足			枚	束	

紙製品								食料										
油紙	合羽	紙函	元結	袋類	帳簿類	其他	計	干瓢	餅飩	素麺	刻鯣	蒲鉾類（スマキ、クヅシ、チクワ、カマボコ）	鰊類	刻昆布及刻荒布	豆腐	蒟蒻		
枚		個	束	枚	冊			貫							丁	個		

〔鳥取合〕

麺類	品		鳳尾竹製品				柿	何々	何々	備考
	其他	計	洋杖	洋傘	其他	計	漆			
石							石			
打										
	丨	丨								
	丨	丨								

〔鳥取合〕

（注意）

一 何々トアル欄ニハ所掲ノ外各地方ニ於テ重要品ト認ムルモノハ總テ調査記入スヘシ

第四五 會社

| 號 | 何郡市 | | |

第四六 工場

| 號 | 何郡市 | | |

一 本票ハ一工場毎ニ式ノ通リ記入シ一票毎ニ番號ヲ附シ之ヲ一括シ其ノ總枚數ヲ包裝ニ記入スヘシ

一 本票用紙ハ本様式ト同様ナル厚キ紙ヲ用ヰ其ノ大サハ截切曲尺縦五寸五分横四寸五分トス

一 本票ハ工場所有主ノ會社タルト個人タルトヲ問ハス直接作業ニ從事スル者平均一日十人以上ヲ使用スル工場ヲ記入スヘシ

一 中央官廳直接工場、中央官廳直轄ノ學校又ハ試驗場等ニ附屬スル工場、監獄内ノ工場、採鑛業、鑛業附屬ノ製煉業ニ付テハ報告ヲ要セス但シ是等以外ニ直接作業ニ從事スル職工徒弟等一日平均十人以上アル場合ニ在リテハ其ノ事業ノ營利的ナルト否トヲ問ハス工場トシテ調査スヘシ

一 本票ハ工場所在地ノ郡市町村役場ヨリ報告スヘシ他府縣及縣内他郡市町村所在工場ノ分工場ト雖其ノ管内ニ在ルモノ亦同シ

一 分工場ニシテ獨立工場ト認メ得ヘキトキハ一構内ニ在ル場合ト雖各別ニ報告スヘシ之ニ反シ建物若ハ所在地ヲ異ニスルモ附屬ト看做スヘキモノハ本工場ニ合併シテ報告スヘシ

一 就業日數ハ休業日ヲ除キタル一箇年中ノ日數ヲ記入シ一日就業時間ハ平均何時間トシ季節ニ依リ著シキ長短アルモノハ各其ノ季節及其ノ時間ヲ記入スヘシ

一 直接作業ニ從事スル者ノ數ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ但シ或種ノ工業例ヘハ「ラムネ」、茶、氷、酒、醬油等ノ製造ノ如キモノニ在リテハ職工或其ノ他ニ就キ其ノ時期間ニ於ケル一日ノ平均數ヲ記入スヘシ

一 直接作業ニ從事スル者ノ數ニハ工場主ヲ合算スヘカラス

一 勞働人夫トハ直接作業ニ從事スル者以外ノ勞働者ヲ謂ヒ其ノ員數ノ計算方亦前項ニ同シ

一 職工ノ賃錢ハ普通職工ノ一人一日ノ平均額ヲ記入スヘシ

一 賄、被服等又ハ其ノ代價ヲ給與スルモノニ在リテハ之ヲ賃錢ニ合算スヘシ

一 自家ニ發電機ヲ備ヘ此ノ電氣ヲ用ヰル電動機アルトキハ此ノ電動機ノ臺數竝馬力數及發電機ヲ運轉スル原動機ノ臺數及馬力數ヲ相當欄ニ記入スヘシ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノハ電動機ノ臺數及馬力數ノミヲ相當欄ニ記入スヘシ

一 製品ノ種類ハ成ルヘク細別シテ記入スヘシ

一 數量ノ欄ニハ貫、斤、箇等其ノ單位ヲ記入スヘシ

一 中央官廳ノ依託ヲ受ケ煙草等ヲ製造スル工場ニ於テハ其ノ數量ハ知リ得ヘキモ價額ハ不明ナルトキハ不詳ト記入スヘシ

一 米麥等ノ賃搗ヲ爲セルモノハ其ノ數量ヲ記入シ價額ノ欄ニハ搗賃ト明記シ其ノ賃料ヲ掲クヘシ其ノ他賃工業ニ屬スルモノ亦之ニ準ス

一 本票ハ明治四十二年十一月農商務省令第五十九號工場統計報告規則ニ依リ調査ヲ行フ年ニ在リテハ提出スルヲ要セス

〔鳥取令〕

第四七 石炭消費高

大正何年

何郡市役所
何町村役場

〔鳥取令〕

	官用	公用	民用
船舶用			
工場用			
計			

（注意）

一 官用ニハ郡使用ノ消費高ヲ記入スヘシ

一 公用ニハ市町村、市町村組合、學校組合、部落、水利組合等ニ於テ使用スル消費高ヲ記入スヘシ

一 民用ニハ個人若ハ農會、森林組合等ノ如キ公益法人又ハ營利會社ノ如キ非公益法人ノ使用スル消費高ヲ記入スヘシ

一 船舶用ハ其ノ船籍所在地ニ於テ調査スヘシ

一 工場用ハ一両工場票ニ記載スルモノト重複ニ計算サルヘキモノアリ

一 船舶ノ官公有タルト民有タルトヲ問ハス郡事業ノ爲ニ使用スル場合ニ在リテハ其ノ石炭消費高ハ官用トシテ調査シ又縣郡所有ノ船舶ヲ町村ニ貸付ケ使用セシメタル場合ニ在リテハ公用トシテ調査スヘシ

第四八 石材製品

大正何年

何郡市役所
何町村役場

	數量	價額	單價	製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	主産地
燈籠	個	圓	圓					
水盤								
井側								
碑石	基							

第四九 物價（何地）

大正何年

何郡市役所
何町村役場

品種	立物名稱	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
米 一石 上		錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
米 一石 中														
米 一石 下														
大麥 一石														
裸麥 一石														
小麥 一石														
大豆 一石														
小豆 一石														
食鹽 一石														
清酒 一石														

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

共他	合計	備考

醬油 一石	味噌 一貫目	茶（番茶粉茶ヲ除ク） 百斤	鰹節 一貫目	牛肉 百斤	鶏卵 百個	牛乳 一升	梅干 一樽（四斗入）	澤庵 一樽（四斗入）	和白砂糖 百斤	洋白砂糖 百斤	和赤砂糖 百斤	洋赤砂糖 百斤	和産繰綿 百斤	洋産繰綿 百斤	紡績綿絲 百斤	洋産綿絲 百斤

晒木綿一反	洋產生金巾（大幅西洋一反）一釜	晒金巾（大幅西洋一反）一釜	生絲百斤 上	生絲百斤 中	生絲百斤 下	花色絹一反	海氣一反	麻百斤	藍玉一貫目	和塊鐵一貫目	洋塊鐵一貫目	洋釘一貫目	松角材（一本二間物）	杉角材（一本二間物）	欅角材（一本二間物）	樅角材（一本二間物）

松六分板一坪	杉六分板一坪	松四分板一坪	杉四分板一坪	松丸太一本	杉丸太一本	屋根板一坪	枕木一挺 栗	枕木一挺 扁柏	水油一石	石油一箱（二鑵）	石炭一噸	薪十貫目	炭十貫目	藁一貫目	袋秣十貫目	美濃紙一束（十帖）

| | | |

下駄職（日給）	英子製造職（日給）	煙草刻職（日給）	植木職（日給）	石工（日給）	建具職（日給）	畳刺職（日給）	經師職（日給）	指物職（日給）	煉瓦積職（日給）	煉瓦製造職（日給）	家根職（日給）	瓦葺職（日給）	左官職（日給）	大工職（日給）	木挽職（日給）

馬具職（日給）	革製造職（日給）	紙漉職（日給）	漆塗職（日給）	鑄物職（日給）	鍛冶職（日給）	鋲打職（日給）	活版植字職（日給）	版摺職（日給）	油製職（日給）	船大工職（日給）	桶職（日給）	柱氏（月給）	醬油造職（月給）	漁夫（日給）	日雇人夫	下男（月給）

下女（月給）	備考

（注意）
一 本調査職業ノ種類ハ適宜増減スルヲ得
一 養蠶絲繰杜氏等其ノ他季節ヲ限リ營業スル者ハ其ノ季節間ノ見通ニテ調査シ調査ノ月ヲ記入スヘシ
一 前年若ハ平年ニ比シ著シキ高低ヲ生シタルモノアルトキハ成ルヘク其ノ理由ヲ記スヘシ
一 賃錢ハ男女共壯年ノ者ニ就キテ調査スヘク老幼ノ賃錢ヲ記入スヘカラス
一 本表ノ調査ハ鳥取市、東伯郡倉吉町、西伯郡米子町及同郡境町ニ限ルモノトス

第五一 諸車

大正何年三月三十一日現在　何郡市役所　何町村役場

種別	馬車			人力車		荷車			牛車	自轉車	自働車		其ノ他	合計	備考
	乘用	荷車				大車	中小車				乘用	荷積用			
	一四立	二四立	一四立	二四立	一人乘	二人乘									
自用															
營業用															
合計															

（注意）
一 荷積車ハ形狀ノ如何ニ拘ハラス人力ニ係ルモノト馬力ニ依ルモノトノ區分ニ隨ヒ荷積馬車若ハ荷車ノ項ニ合載スヘシ
一 荷車中大車トハ荷臺ノ尺坪十四坪以上ノ積量ヲ有スルモノヲ云フ

〔鳥取令〕

一 自轉車ハ其形狀ノ如何ニ拘ハラス發動機ニ依ルモノハ自働ノ欄ニ人力ニ依ルモノハ通常ノ欄ニ記載スヘシ
一 本表種別ノ外地方ニ依リ特殊ニ製造使用スル車輛ハ其ノ他ノ項ニ掲載スヘシ
一 免稅ニ係ルモノハ欄内ニ別ニ朱書スヘシ
一 備考ニ「其他」ノ内容ヲ示スヘシ

第五二 小船

大正何年三月三十一日現在　何郡市役所　何町村役場

船種	三間未滿トモ	三間	四間	五間	六間	七間	八間	何々	何々	計	備考
動力ヲ有スル船											
動力ヲ有セサル船											
合計											

〔鳥取令〕

（注意）
一 本表ノ間數ハ舳梁ヨリ艫梁マテヲ測度シタル長サトス
一 本表ハ明治四十年五月遞信省令第二十四號船鑑札規則ノ範圍外ニ屬スル小船ノ毎年度末日ノ現在艘數ヲ調査スルモノトス
一 免稅ニ係ルモノハ欄内ニ朱書スヘシ

漁業

第一 漁業表	漁業者戸口	番號	名	報告期限	
			町村一郡市	翌年一月三十一日	翌年二月二十八日

第二 漁船
第三 難破漁船
第四 漁獲物
第五 水產製造物
第六 水產養殖
第七 遠洋漁業ノ一
第八 遠洋漁業ノ二
第九 漁網

同
同
同
同
同
同
同
同
同
翌年三月十日

同
同
同
同
同
同
同
同
同
翌年四月十日

第一 漁業者戶口

大正何年十二月末日現在

何郡市役所
何町村役場

備考	計	鹹水	淡水	漁業ヲ主トスルモノ 戶數	漁業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 男	漁業ヲ主トスルモノ 人口 執業者 女	漁業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 男	漁業ヲ主トスルモノ 人口 從屬者 女	漁業ヲ從トスルモノ 戶數	漁業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 男	漁業ヲ從トスルモノ 人口 執業者 女	漁業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 男	漁業ヲ從トスルモノ 人口 從屬者 女	計 戶數	計 人口 執業者 男	計 人口 執業者 女	計 人口 從屬者 男	計 人口 從屬者 女

（注意）
一 戶數ニハ戶籍上一戶ヲナスモノト否トヲ問ハス獨立ノ一所帶ヲナシ營利ノ目的ノ以テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ營ム者ヲ謂フ
一 漁業者トハ業務主又ハ滿十四年以上ノ被用者ニシテ實際漁業ニ從事スルモノヲ謂フ
一 漁業ヲ主トスルモノヽ欄ニハ漁業ニ依リ生計ヲ立ツルモ漁業ヲ從トスルモノヽ欄ニハ他ニ本業ヲ有シ其ノ傍漁業ニ從事スルモノヲ掲記スヘシ

【鳥取令】

第二 漁船

大正何年

何郡市役所
何町村役場

備考	合計	動力ヲ有スルモノ 計	動力ヲ有スルモノ 發動機ヲ有スルモノ 二十噸又ハ二百石未滿	動力ヲ有スルモノ 發動機ヲ有スルモノ 二十噸又ハ二百石以上	動力ヲ有スルモノ 蒸汽機關ヲ有スルモノ 二十噸又ハ二百石未滿	動力ヲ有スルモノ 蒸汽機關ヲ有スルモノ 二十噸又ハ二百石以上	動力ヲ有セサルモノ 計	動力ヲ有セサルモノ 二十噸又ハ二百石以上	動力ヲ有セサルモノ 五噸以上二十噸又ハ五十石以上二百石未滿	動力ヲ有セサルモノ 五噸又ハ五十石未滿	新造船 概數	新造船 價圓	廢用船數	現在船數

（注意）
一 本表ハ日本形船ト西洋形船トヲ問ハス之ヲ記入スヘシ
一 動力ノ有スルモノトハ主タルト補助タルトヲ問ハス動力ニ依リテ其ノ船ヲ航走セシムルモノヲ謂フ

【鳥取令】

一 發動機ヲ有スルモノノ欄ニハ蒸汽以外ノ動力ヲ有スルモノヲ記入スヘシ
一 噸數ハ總噸數ヲ記入スヘシ
一 現在船數ノ欄ニハ其ノ年十二月末日現在數ヲ記入スヘシ
一 新造船ハ其ノ年内ニ竣工セルモノヲ記入スヘシ
一 廢用漁船トハ漁用ニ堪ヘスシテ其ノ年内ニ使用ヲ廢シタルモノヲ謂フ但シ雜破漁船ヲ加フヘカラス
一 一度廢用トナリタル漁船ニ修繕ヲ加ヘ再ヒ使用スルモノ年末ニ存在スル場合ニハ現在船數欄ニ記入スヘシ
一 船體ノ構造漁業用ノモノ、船體ノ構造如何ニ拘ハラス主トシテ漁業ニ用フルモノ昆布、紫菜其ノ他藻類ノ採集ニ供スルモノ、主トシテ漁獲物ノ運搬用ニ供スルモノハ本表ニ調査記入スヘシ
一 甲郡市ニ於テ新造シ之ヲ其ノ郡市ノ船籍ニ登錄シ後之ヲ乙郡市ニ賣却シタルトキハ甲郡市ニ於テハ新造ノ欄ニ加ヘ乙郡市ニ於テハ現在船數ノ欄ニ記入スヘシ若シ甲郡市ニ於テ新造シ未タ登錄セサルニ乙郡市ニ賣却シタルトキハ乙郡市ニ於テハ新造ノ欄及現在船數欄ニ記入スヘシ

第三 難破漁船

大正何年　何郡市役所 何町村役場

遭難ノ種類	遭難ノ場所	月日	船數	乘組總員	遭難人員 死亡	負傷	死生不明	計
破壞								
漂流								

〔鳥取令〕

行先不明		顚覆		其ノ他		計	備考

〔島根令〕

（注意）
一 本表ハ船籍所在郡市役所、町村役場ヨリ報告スヘシ
一 本表ニハ海岸等ニ繫留シアルモノノ難破ヲ含マス
一 暴風雨海嘯等アリテ遭難船多カリシ場合ニハ之ヲ備考トシテ記入スヘシ

第四　漁獲物

一　西洋形漁船ノ難破モ本表ニ調査記入スヘシ

大正何年

何何町郡村市役役場所

魚類	鰯ニシン	貝マイワシ	背黒鰯（或ハ方言カタクチ）	鰹カツオ	鮪バ	鮎ヒシ	鮪マグロ	鰹スケトウダラ	鰯イワシ	鯖サバ	鰈カレイ	鰺アジ	鯛タイ	鱚キス	鰻ウナギ	鯉コイ	鮎アユ	鱒マス（鮭ヲ含ム）	鮭サケ	鮒フナ	鯉コイ	赤アカ	秋サケ	文トビ	鰯ヒシ	蛸タコ	鰻アナゴ
數量	貫																										
價額	圓																										
單價	圓																										

魚類	計	其ノ他	鮫フカ	鯛タイ	鰻ウナギ	鰹カツオ	鯉コイ	鮎アユ	鱒マス（鮭ヲ含ム）	鮭サケ	鯛タイ	赤アカ	秋サケ	文トビ	鰯ヒシ	蛸タコ	鰻アナゴ
數量																	
價額																	
單價																	

〔鳥取令〕

〔鳥取令〕

水産		動物				藻類							合計	備考
タラバ蟹（方言カザニ）	松葉蟹	其他ノ蟹	海鼠（ナマコ）	鯨（クジラ）	海柳（ウミヤナギ）（方言白珊瑚）	其他ノ藻類	計	昆布（コンブ）	和布（ワカメ）	紫菜（アマノリ）	石花菜（テングサ）	海苔（ノリ）	其他ノ藻類	計		
				頭	貫											

| 貝類 | | | | | | | | | | | | | 其ノ他 | | | | | | | | | | | | |

（注意）

一 本表ハ遠洋漁業ヲ除キ漁獲物ノ總額ヲ調査スヘキモノトス故ニ水産製造物ノ原料タルモノハ勿論水産養殖ノ收獲高モ本表中ニ合算スヘシ

一 漁獲物ハ水揚シタル生鮮ノ狀態ニ於ケルモノヲ調査スヘキモノトス但昆布、和布、紫菜、石花菜、其ノ他ノ藻類ニ就テハ水分ヲ除去シタル儘ノ數量ヲ調査記入スヘキモノトス

一 何レノ海上ニテ漁獲セシヲ問ハス其ノ郡市所屬漁民ノ捕獲シタルモノハ他縣、郡ニ一定ノ漁場ヲ有スルト否トヲ問ハス又滯留期間ノ長短若ハ該地ニ於テ販賣セシト製造セシトニ拘ハラス總テ漁民所屬ノ郡市ニ於テ調査スヘシ

一 漁業免許ヲ得タルモノノ捕獲シタルト其ノ他ノ者ノ捕獲シタルトヲ問ハス總テ之ヲ調査スヘキモノトス但慰ミノ漁獵ニ係ルモノハ調査ニ及ハス

一 同一種類ノ魚類ニシテ幼年期ト壯年期トニ於テ其ノ名稱ヲ異ニスルモノハ合算記入スヘシ例ヘハ鰤ノ欄ニハ「イナ」ヲ鮪ノ欄ニハ「メジ」ヲ合算記入スルカ如シ

一 潤目鰯ハ（方言）「ドウメ」或ハ「ドウキン」、眞鰯又ハ背黑鰯トハ別物ナレトモ眞鰯ニ稍近キヲ以テ之ヲ合併記入スヘシ

一 或ル魚類ニシテ其ノ種類數多アル場合ニ於テ樣式ニ特ニ區別シテ掲ケサル以上ハ之ヲ合算シテ記入スヘシ例ヘハ鰤ノ欄ニハ「ワラサ」「ハマチ」「ヤヅ」「イナダ」ヲ鯛ノ欄ニハ「レンコ鯛」、鼻折レ鯛ト云フ）「チダヒ」ヲ鮪ノ欄ニハ「メジ」「カジキ」「キワダ」「ビンナガ」「メバチ」ヲ合算シテ記入スヘシ

一 貝類ハ殼付ノ儘計算スヘシ

一 漁獲物ノ調査ハ漁業者仲買人、小賣人、若ハ漁業組合等ニ就キ調査スヘキモノトス、但シ漁業者ニ就キ調査スル場合ニ在リテハ水揚帳ニ記載シタルモノノ外自家用ノモノト雖總テ調査スヘキモノトス

第五 水産製造物

大正何年 何郡市役所 何町村役場

節		數量	價額	單價
鰹節		貫	圓	圓
鮪節				
其ノ他				

〔鳥取令〕

| 類 | 計 | 乾 | | | |

| 乾 | | |

| 魚 | | 肥料 | | |

| 共ノ用ニ供スル水面 | | |

漁獲物		船 動力ヲ有スルモノ 蒸汽機關ヲ有スルモノ 乘組員	順數	船數	發動機ヲ有スルモノ 乘組員	順數	船數
鰹	數量						
	價額						
	單價						
鯖	數量						
	價額						
	單價						
鰯	數量						
	價額						
	單價						
鰤	數量						
	價額						
	單價						
鰹	數量						
	價額						
	單價						
鯨	數量						
	價額						
	單價						
鮪	數量						
	價額						
	單價						
鰮	數量						
	價額						
	單價						
鰺	數量						
	價額						
	單價						
鯖	數量						
	價額						
	單價						
秋刀魚	數量						
	價額						
	單價						
鰈	數量						
	價額						
	單價						

〔鳥取會〕

漁業	動力ヲ有スルモノ 蒸汽機關ヲ有スルモノ 乘組員	順數	船數	發動機ヲ有スルモノ 乘組員	順數	船數	
鰹釣漁業							
帆船捕鯨業							
曳網漁業							
計							
出漁者ノ村名							

第八　遠洋漁業ノ二

鰹	二番柔魚（スルメイカ）	其他ノ	計	備考

〔鳥取會〕

漁獲物	數量	價額	單價	數量	價額	單價	數量	價額	單價
	貫	圓	圓	貫	圓	圓	貫	圓	圓
鰹									
鯖									
鮪									
鯛									
鱈									
鱒									
鰺									
秋刀魚									
鰯									
鰩									
二番柔魚（スルメイカ）									
其ノ他									
計									

備考

〔鳥取令〕

（注意）

一 本表ハ遠洋漁業奬勵法ニ依リ奬勵金ヲ受クル船舶竝總噸數五噸以上ノ船舶ヲ以テ沖合ニ於テ本表ニ掲記セル種類ノ漁業ニ從事スルモノヲ調査スヘシ但シ汽船トロール漁業、汽船捕鯨業、露領沿海州、露領薩哈嗹州、堪察加州、朝鮮海及關東州沿海出漁ヲ除ク

一 漁船中石數ヲ以テ計算スルモノアルトキハ十石ヲ以テ一噸（噸未滿ハ四捨五入）ニ換算シ之カ噸數ヲ記入スヘシ

一 二種以上ノ漁業ニ從事スル漁船ハ主ナル一方ニ記入シ漁獲物ノ數量及價額ハ之ヲ區別シ相當欄ニ記入スヘシ

一 乘組員數ハ直接漁獵ニ從事スル者ハ勿論漁獵ノ補助者ヲモ記入スヘシ

一 旋網漁業トハ巾着網、揚繰網類ノ漁業ヲ謂ヒ沖曳網漁業トハ沖手繰網、打瀨網及帆船トロール漁業ヲ謂フ

一 其ノ郡市所屬漁民ノ捕獲物ハ其ノ郡市ニ持歸リタルモノハ勿論他所ニ於テ販賣シタルモノト雖總テ之ヲ調査スヘシ

第九 漁網 大正何年 何郡市役所 何町村役場

類	網	現在網數	所有者數	新造 網數	新造 概價	新造 單價	修繕 網數	修繕 概價	全部幾部	實用網數
曳網	鰹地曳網	統			圓	圓		圓	統	統
	鰹船曳網									
	鯛ブリ網									
	飯地曳網									
	瀨曳網									
	雜魚地曳網									
	烏曳網									
	鮭鱒曳網									
	赤貝桁網									
	其他									

網	繰	類	網落	類	網臺			類	網疋		類	網刺				
甲烏賊網	手繰網	其他	鱈落網	其他	鰮締網	舒網戸網	大敷網	其他	飯建網	舒建網	其他	飯掛網	鰆流網	鰤流網	十日網	鰮刺網

合計	網捻	類	網敷			類	網旋								類	
	投網	其他	沖鯵網	六艘網	四張網	其他	揚繰網	鰯網	巾著網	丸子捲網	鰆・縛網	鰤捲網	飯捲網	鰐網	其他	笄網

林業

番號	林業表	名	報告期限 町村	報告期限 郡市	備考
第一	土石類		翌年一月三十一日	翌年二月二十八日	
第二	民有林野面積定期調査		同二月二十八日	同三月三十一日	
第三	學校林定期調査		同	同	
第四	民有林野開墾		同	同	
第五	造林用苗木		同	同	
第六	民有林野人工造林		翌年三月三十一日	翌年四月三十日	
第七	民有林野天然造林		同	同	
第八	民有林野被害		同二月二十八日	同三月三十一日	
第九	民有林伐採		同三月三十一日	同四月三十日	
第一〇	林野產物		同二月二十八日	同三月三十一日	
第一一	木炭		同	同	
第一二	加工用材		翌年三月十日	翌年四月十日	

（注意）

一 本表 新嘗ハ其ノ年内ニ製作又ハ購入シタルモノヲ掲クヘシ製造シテ販賣スルモノハ記入スヘカラス

一 共同所有ニ屬スルモノハ一人トシテ計上スヘシ

一 現在網數所有者數ハ其ノ年十二月末日現在ヲ調査記入スヘシ

〔鳥取會〕

第一三 民有林野放牧定期調査

第一 土石類

大正何年 何郡市役所 何町村役場

其ノ年十一月十日 其ノ年十二月十日

	數量	價額	單價	主產地
石				
花崗岩		圓	圓	
安山岩				
凝灰岩				
何々				
何々				
何々				
材				
計				
雜				
陶磁器原料				
耐火粘土				
砥石				
寶石（黃玉、水晶、瑪瑙、蛋白石等）				
石灰石				
白雲石				
何々				

〔鳥取會〕

類				合計	備考
何々	何々	飲料用鑛泉	計		

（注意）

一 石材欄ニハ土木用、建築用、裝飾用又ハ墓碑、庭園敷石用等ノ石材及碎石ヲ記入スヘシ

一 數量ノ單位ハ箇、切、坪、貫、斤等地方ノ慣習ニ從ヒ記入スヘシ但シ同種類ノモノハ同一ノ單位ヲ用フヘシ

一 自家用原料トシテ採取シタル爲メ其ノ價額不明ノモノアラハ數量ノミヲ記入スヘシ

一 本表以外ノ土石類ハ適宜欄ヲ設ケ記入スヘシ但シ「セメント原料」、火山灰、金剛砂、磨砂、硯材、蠟石、明礬石、硅藻土、硅石、石膏、重土類、螢石、石絨、其ノ他有用土石類ノ生産アルトキハ雜類ニ記入スヘシ

第二　民有林野面積定期調査

大正何年十二月末日現在　何郡市役所 何町村役場

| 土地臺帳面積 | | | | |

	小學校	甲乙種實業學校	其ノ他	計	備考
	町段				
	町段				
	町段				

（注意）

一 本表ハ大正四年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後毎三年ニ調査報告スヘシ

一 本表ニハ其ノ土地ノ所有者ノ何人タルヲ問ハス學校ノ爲メニスル森林ヲ調査スヘシ

一 本表箇所ハ土地臺帳ノ一筆ヲ以テ一箇所トシテ調査スヘシ

第四 民有林野開墾

大正何年

何郡市役所
何町村役場

	田		畑		宅地		其ノ他形質變更	計	備考
	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	
公有		町段		町段		町段		町段	
社寺有									
私有									

（注意）

一 本表ノ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑、其他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

〔鳥取令〕

一 燒畑トハ森林ヲ伐採シテ其ノ跡地ヲ燒キ一時畑地トナシ地力衰ヘ農作物ノ收穫ナキニ至リ之ヲ放棄スルモノヲ謂フ

一 切替畑トハ森林ヲ伐採シテ其ノ跡地ヲ一時畑地トナシ其ノ肥料分消失シタルトキ其ノ地ニ造林シ或ハ年月經過後再ヒ之ヲ伐採シテ畑地トナシ交互此方法ヲ採ルモノヲ謂フ

一 其他形質變更トハ例ヘハ鑛業用ノ坑口ノ掘鑿、土石ノ採掘、木炭窯ノ築造、其他山林タルノ狀態ヲ失ヒタル場合ヲ謂フ

一 開墾ノ箇所面積ハ現實開墾シタルモノヲ調査スヘキモノトス

〔鳥取令〕

第五 造林用苗木

大正何年十二月末日現在

何郡市役所
何町村役場

	郡	市町村	部落	森林組合	其ノ他團體	苗木商	個人	計
苗圃面積	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪
杉	千本	千本	千本	千本	千本	千本	千本	千本
扁ノ柏（ヒノキ）								
松								
落葉松（カラマツ）								
花柏（サワラ）								
羅漢柏（ヒバ）								
其他								
計								
樟（クス）								
檜（カシ）								
櫟（ケヤキ）								

栗	櫟	其他	計	備考

（注意）

一 苗圃面積ハ現在苗木養成ノ爲メニ使用スル總テヲ調査スヘシ

一 苗木ハ一年生以上ノモノヲ調査スヘシ

一 苗木ノ本數ハ千本ヲ以テ單位トス

但シ町村ニ在リテハ百本ヲ以テ單位トス

一 營利會社ノ分ハ苗木商欄ニ合算スヘシ

一 苗木商人數（苗圃ヲ有スルモノニ限ル）ハ特ニ備考トシテ記入スルモノトス

第六　民有林野人工造林　　大正何年　　何郡市役所 何町村役場

| 新植 | | | |

| 補植（數量） | | |

（注意）

一 本表ハ天然下種ニ依リ發芽シ若ハ切株ヨリ萌芽シタル場合ニ於テ成林ノ見込確立シタルモノニ就キ調査記入スヘシ

一 面積ハ天然下種又ハ萌芽ノ區域面積ヲ調査記入スヘシ

一 天然下種トハ母樹ヨリ落下シタル種子ノ發芽シテ森林ヲ成スモノヲ謂フ

第八 民有林野被害

大正何年　何郡市役所　何町村役場

	被害面積 立木地 町段	被害面積 無立木地 町段	被害面積 計 町段	被害價額 圓
公有 風害				
公有 雪害				
公有 病蟲害				
公有 火災 放火				
公有 火災 失火				
公有 火災 其ノ他				
公有 火災 計				
公有 合計				
社寺 風害				
社寺 雪害				
社寺 病蟲害				
社寺 火災 放火				
社寺 火災 失火				

〔鳥取令〕

	總計	私有 火災 放火	私有 火災 失火	私有 火災 其ノ他	私有 火災 計	私有 合計	私有 病蟲害	私有 雪害	私有 風害	有 災 計	有 災 其ノ他	有 合計	備考

（注意）

一 本表ハ被害面積一段歩以上ノモノニ限リ調査スヘシ

一 被害價額ハ實際ニ亡失シタルモノヲ計算スヘシ

一 價額ハ總テ山元相場（立木賣渡價額）ニ依リ計算スヘシ

一 本表式ニ定ムルモノノ外顯著アル被害アリタルトキハ備考トシテ記入スヘシ

〔鳥取令〕

第九　民有林伐採

大正何年　何郡市役所 何町村役場

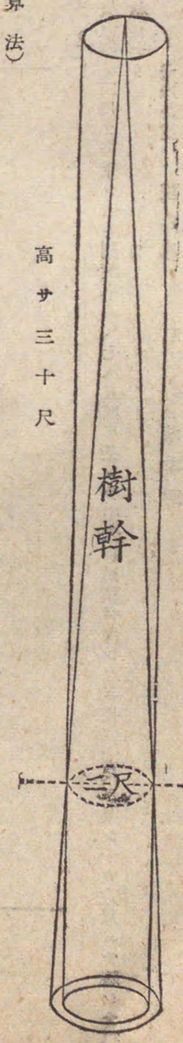
| 用 | | |

| | | |

立木材積ノ計算法ハ左表ニ示ス所ノ形數ヲ用フルトキハ實用上便利ニシテ容易ニ算出スルヲ得ヘシ（形數トハ想像圓柱體ニ比較シタル樹幹體積ノ割合ニシテ樹齡、樹種、地位等ノ異ナルニ從ヒ一定セサルモノナリ此算法ニモ種々ノ方法アレトモ左ノ形數表ハ實用上便利ナルモノトス）

左ノ如キ立木ノ材積ヲ知ラント欲セハ

圓柱



（算法）

目通直徑ノ二尺ヲ自乘シ之ニ圓積率〇、七八五四ヲ乘シ又之ニ高サ三十尺ヲ乘シ更ニ形數〇、五五ヲ乘シ之ヲ十立方尺ニテ除シテ得タル數ハ其材積ナリ

目通直徑 2尺 × 圓積率 0.7854 × 高 30尺 × 形數 0.55 ÷ 10 立方尺 = 5.18361

答 五石一八三六四

形數表

高間	形數	高間	形數	高間	形數
3.0	0.61	8.0	0.51	13.0	0.49
3.5	0.57	8.5	0.51	13.5	0.48
4.0	0.56	9.0	0.50	14.0	0.48
4.5	0.55	9.5	0.50	14.5	0.48
5.0	0.55	10.0	0.50	15.0	0.47
5.5	0.54	10.5	0.50	15.5	0.47
6.0	0.54	11.0	0.49	16.0	0.47
6.5	0.53	11.5	0.49	16.5	0.47
7.0	0.53	12.0	0.49	17.0	0.47
7.5	0.53	12.5	0.49	17.5	0.46
18.0	0.46	18.5	0.46	19.0	0.46
19.5	0.45	20.0	0.45	20.5	0.44
21.0	0.44	21.5	0.43	22.0	0.42
22.5	0.41				

〔鳥取令〕

（備考）本表ハ松、杉、檜、扁柏、蝦夷松、檜等數種ノ形數ヲ平均シタルモノナリ

一 薪炭材ノ材積計算法

薪炭材ノ材積單位ハ長サ二尺ノモノヲ高サ五尺幅十尺ニ積立テタルモノ即チ層積百立方尺ヲ以テ一棚トス

（一） 石數ヲ棚ニ換算法

薪炭材ノ一棚ノ層積ノ百立方尺ニハ間隙アルヲ以テ其實積ハ三割ヲ減シ即チ七十立方尺アルモノト看做スヘキモノナルヲ以テ一棚ハ用材ノ七石（二石ハ十立方）尺ニ相當スルモノトス故ニ或ル薪炭材ノ石數ヲ以テ計算セシモノハ七石ヲ以テ除スレハ棚數ヲ得ルモノトス例ヘハ茲ニ二千一百石ノ薪炭材アリトシ之ヲ棚數ニ換算センニハ二千一百石ヲ七石ニテ除シ得タル三〇〇ハ即チ棚數ナリ

（二） 貫數ヲ棚ニ換算法

或ル薪炭材ノ重量ヲ以テ計算セシモノハ左記下段ノ重量ヲ以テ一棚トシ換算スヘキモノトス

樹種	一立方尺ノ重量	一棚ノ重量
杉類 松、	三、一一〇—五、五〇〇 貫	二一八—三八五 貫
杉類 櫺（クシロ）	四、二〇〇—七、八四〇	二九四—五四九
杉類 檜（クスギ）	六、三〇〇—六、六六〇	四四一—四六六
杉類 檜	五、一〇〇—六、八一〇	三五七—四七七
杉類 楓（カヘデ）	四、五九〇—六、二九〇	三二一—四四〇
杉類 イチリロ	五、五〇〇—六、一五〇	三八五—四三一
杉類 榁	四、四五〇—六、二六〇	三一二—四三八

（備考）右一立方尺ノ重量ハ〇、氣中ニ放置セラレテ自然ニ乾燥セル木材即チ通常ノ有樣ニ於ケル木材ノ重量ナリ

〔鳥取令〕

第一〇　林野産物

大正何年　何郡市役所　何町村役場

	數量	價額	單價
造林用種子			
杉	升	圓	圓
扁柏ノ			
松			
落葉松			
樅			
樺			
櫸			
計			
其ノ他			
樹實			
栗	石		
七葉樹ノ實			
櫨			
榧、椿、油桐等			
計			
杉	坪（六尺平方）		

樹皮			
扁柏	束		
金松			
欅			
厚皮樅			
化ノ香ノ樹			
黄蘗			
鵜木			
肉桂			
棕榈	斤		
竹皮	貫		
雁皮			
其ノ他			
計			
根類			
葛根	貫		
蕨根			
丹栗			
計			

自		鳥	獸	其他諸菌類	松茸（生ノモノ）	椎茸（乾燥シタルモノ）	醋酸石灰	木タール	松煙	松脂	五倍子	黄蓮	草及蔓				
薇	蕨	類	類	類									計	羊齒	木通	藤	
	貫	羽	疋	貫		斤	貫	石				斤				束	

合計	何々	何々	何々	柴（草）	香料			樟葉	菜蔬				生熟				
					計	其他	莽草ノ實		計	其他	款冬	筍	スノコ	山葵	獨活	薯蕷	
				貫				斤									

備考

（注意）
一 本表ハ國有、公有、社寺有、私有林野ニ於ケル總生産額ヲ調査スヘシ
一 櫨及栗ハ農業ノ部第五號第六號ト重複セサル樣調査スヘシ
一 本表所定ノ單位ニ依リ難キモノハ地方慣用ノモノニ依リ計算スヘシ但シ其ノ地方慣用ノモノ及本表ノ末ニ付テハ其ノ數量ノ説明ヲ備考トシテ記入スヘシ

第一一 木炭

大正何年　何郡市役所 何町村役場

製造戸數	製造額 數量	製造額 價額	窯數 土窯	窯數 石窯	窯數 計	燒夫 男	燒夫 女	燒夫 計	主産地
白炭	貫	圓							
黑炭									
鍛冶炭									
蹈鞴炭									
計									

備考

〔鳥取令〕

（注意）
一 製造戸數及竈數ハ其ノ年十二月末日現在、燒夫ハ平常炭燒ニ從事スル一日平均數ヲ記スヘシ但シ專業者ニ係ルモノハ朱書スヘシ
一 價額ハ山元相場ニ依ルヘシ

第一二 加工用材

大正何年　何郡市役所 何町村役場

		數量	價額	單價	備考
丸材及角材	松	石	圓	圓	
	杉				
	扁柏				
	栗				
	欅				
	其他				
	計				
挽材	松				
	杉				
	扁柏				
	栗				
	其他				
	計				

〔鳥取令〕

樽木	下駄材	下駄歯木	鐵道枕木	車輛用材	燐寸用木片	包裝用箱材	曲輪	木管	經木材	屋根板	洋傘柄	洋杖材	各種木地材	備考
挺	駄	束	挺	石	把	箱	駄	本	貫	束	本			

（注意）

一　本表ノ各種目ハ或ル用途ニ宛ツル爲多少加工シタルモノヲ調査スルモノトス

〔鳥取舍〕

一　角材トハ柱ニ使用スル爲メ製材シタルモノハ勿論丸材ノ四方ヲ削リ若ハ挽取リタルモノヲ調査スヘシ

一　挽材ニハ板、縁、平物、貫、垂木ハ勿論一般挽割物ヲ包含ス而シテ坪ヲ以テ計算スルモノノ外ハ價額ノミ別ニ記入スヘシ

一　樽木トハ井戸側又ハ桶、樽等ノ製作ニ使用スル製材ヲ謂フ

一　曲輪トハ篩、曲物等ノ製作ニ使用スル製材ヲ謂フ

一　甲郡市ニ於テ乙郡市ノ產出ニ係ル丸及角材ヲ原料トシテ買入レ之ヲ製板シタルトキハ甲郡市ニ於テハ挽材トシテ調査スヘシ

一　曲輪及下駄材ノ單位一駄ニ就テハ地方ニヨリ重量又ハ容積ノ計算方區々ナルモ地方ノ慣習ニ依リ調査シ其ノ內容ヲ備考ニ附記スヘシ其ノ他之ニ類スルモノ皆同シ

第一三　民有林ノ放牧ニ關スル調査

大正何年九月末日現在

何郡市役所
何町村役場

牧場名稱	所在地名	經營者	設立年月	資本金額	牧場段別									備考
				圓	町段	町段	山林	原野	牛	馬	其他	計	頭數	
									牝	牝	牝	牝	牡	
									牡	牡	牡	牡	牡	

●郡役所ニ官報報告主任ヲ置クノ件

達甲第三十九號(明治十九年十二月二十五日)　郡役所

官報ノ報告ヲ敏速精確ナラシムルタメ郡書記ノ内其報告主任二名(一名ハ雇ヲ以テ充ツルモ妨ケナシ)以上ヲ設ケ常ニ本廳主任官ト氣脈ヲ相通シ事務ノ便益ヲ謀ラシム

但其廳主任官姓名等早々屆出ツヘシ爾後變更ノトキモ又同シ

第四章　雜

●官吏服務規律改正ニ付心得方

達第百十號(明治二十年十一月九日)

郡役所　戸長役場
縣立學校　官國幣社々務所
縣立鳥取病院　公立小學校

官吏服務規律改正施行相成候ニ付テハ左ノ通相心得ヘシ

第一　規律第七條第八條及第十一條第十三條ニ依リ許可ヲ請フモノアルトキハ各其監督ノ任アル者ニ於テ事實取調郡役所戸長役場及小學校職員ニ係ルモノハ郡長官國幣社神職及縣立學校病院職員ニ係ルモノハ宮司又ハ各其長ニ於テ副申シテ差出スヘシ

第二　同第七條第十一條第十三條ノ許可ヲ得タルモノニシテ其業務ヲ止メタルトキハ前項ノ手續ヲ經テ其旨屆出ヘシ

第三　同第十六條ニ依リ禀告スルトキハ其過失者ノ手續書ヲ徵シ及之ニ對シ確實ヲ認ムルヲ得ヘキモノアルトキハ添付スヘシ其懲戒處分ニ入ラサルモノト認メ訓告シタルトキハ事由ヲ具シ其時々屆出ヘシ

第四　職務上過失アリテ待罪書ヲ差出シ之ヲ進達スルトキハ前項ノ手續ニ依ルヘシ

●官吏其職務外ニ於テ公衆ニ對シ政事上ノ意見ヲ演說セントスルトキ屆出方

●訓第十二號(明治二十二年四月五日)　廳中一般監獄察署

官吏其職務外ニ於テ公衆ニ對シ政事上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ敍述セントスルトキハ演說ハ三日前ニ敍述ハ豫シメ其事項ノ要領ヲ記シ屆出ヘシ

右訓示ス

●訓第十三號(明治二十二年四月五日)　郡役所　戸長役場

官吏其職務外ニ於テ公衆ニ對シ政事上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ敍述セントスルトキハ演說ハ三日前ニ敍述ハ豫シメ其事項ノ要領ヲ記シ屆出ヘシ

右訓示ス

●公用印章押用ニ關シ注意方

番外(明治十七年五月二十日)　郡長

公用印章ノ義ハ公務ノ外私ニ係ル諸願屆書等ニ押用致ス間敷筈ノ所間ニハ誤用候向モ有之哉ノ趣不都合ニ候條爾後右樣ノ義無之樣戸長ニ至ル迄注意セシムヘシ此旨訓示候事

〔鳥取合〕

●郡長署所長等公務ノ爲メ出縣シタルトキ宿所屆出ノ件

訓令第二十號(明治三十一年三月四日)

郡役所(縣廳所在地ノ分ヲ除クノ下同シ)
警察署　警察分署
監獄支署　測候所
縣立學校　縣立病院
縣立驅黴院

郡長署所長校長院長及吏員職員ニシテ公務ノ爲メ出縣シタルトキハ宿所ヲ明記即時屆出ツヘシ但シ御用濟出發ノ際亦同シ

明治十九年七月七日乙番外ハ廢止ス

●新任又ハ他廳ヨリ轉任シタル者ハ履歷書差出ノ件

訓令第五十八號(明治三十八年十月二十二日)

郡長　警察署長
警察分署長　縣立學校長
縣立農事試驗場長　縣立種畜場長
縣立水産試驗場長　測候所長
鼠病豫防事務所長　縣立病院長
縣立娼妓病院長　土木區工營所主任
物産陳列場長

新任又ハ他廳ヨリ轉任シタル者ハ五日以内ニ別紙書式ノ履歷書ヲ差出スヘシ

但シ用紙ハ知事官房ニ請求スヘシ

前項履歷書差出ノ後原籍身分現住所ノ異動及改氏名ノトキハ其都度屆出ツヘシ

明治二十九年三月鳥取縣訓令第三十四號ハ廢止ス

(書式略ス)

●社團及財團法人取締規程

縣令第四十八號(明治四十四年十二月二日)

社團及財團法人取締規程

第一條　社團又ハ財團法人ハ左記事項ヲ其ノ事實ノ發生シタルトキヨリ二週間以内ニ當廳ニ屆出ヘシ

一　登記ノ事項及其ノ年月日
一　毎年度末現在財産目錄
一　毎年度末現在社員數
一　監事ノ住所、氏名及就任退任ノ年月日
一　毎年度ニ於ケル事業ノ狀況
一　總會ニ於ケル議決事項

第二條　社團又ハ財團法人ハ毎年度經費ノ收入支出豫算ヲ調製シ豫算ハ決定後十日以内ニ決算ハ年度終了後三十日以内ニ當廳ニ報告スヘシ豫算ヲ追加更正シタルトキ亦同シ

第三條　社團又ハ財團法人ハ出納帳簿ヲ備ヘ金錢物品ノ出納ノ明細ニ記入スヘシ

第四條　社團又ハ財團法人ニシテ常時多數ノ老幼者、疾病者、不具廢疾者、窮民、不良少年、浮浪者、無職業者若ハ免囚者等ニ對シ保護、扶養、施療、感化、職業ノ授與、紹介等ヲ爲スヲ以テ目的トスル者ハ被救濟者ノ

〔鳥取合〕

被救濟者名簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 本籍地及族稱

二 氏名及男女ノ別

三 生年月日

四 戸主トノ續柄及父母トノ關係

五 救濟著手年月日及事由（被救濟者ノ種別トモ）其他本人ノ身上ニ關スル事項

六 未成年者ニ關シテハ就學種痘及後見人ニ關スル事項

七 退去、死亡、逃亡等ノ年月日及其事由

八 前各號ノ外必要ト認ムル事項

前項ノ名簿ハ被救濟者ノ種別毎ニ別冊トシ又ハ一冊トシテ口座ヲ設ケ用紙一枚ヲ一人ニ專用スヘシ

第五條 前條ノ社團又ハ財團法人ハ被救濟者ノ保護、扶養、施療、感化、職業ノ授與又ハ紹介等ノ事態ヲ明瞭ニスヘキ帳簿ヲ備フヘシ

被救濟者ヲ一定ノ場所ニ收容シテ作業ヲ爲サシムルトキハ各被救濟者ニ就キ其收得ヲ明細ニ記入スヘシ

第六條 知事ハ何時ニテモ官吏、吏員ヲ派シ社團又ハ財團法人ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第七條 附則 明治三十七年十月鳥取縣令第五十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

訓令第六十號（明治三十七年十月八日）

郡役所 市役所

社團又ハ財團ヲ法人ト爲スニ付民法第三十四條ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ要スル申請書ノ經由方申出ル者アルトキハ其ノ法人設立ノ目的及事業ノ順序狀況並設立者ノ身元經歷又許可ヲ得テ設立シタル法人ヨリ書類ノ經由方申出ル者アルトキハ其ノ事由件案等調査ノ上左記事項ニ從ヒ進達スヘシ

法人ノ業務ニ就テハ專ラ公益ヲ主トシ營利行爲アル可ラサルハ勿論其ノ設立ノ目的及條件以外ニ渉ルヘカラサル義ナルヲ以テ常ニ監督シ偽民法第七十一條ニ該當スト認ムル場合ハ直ニ事由具申スヘシ

一 設立許可ノ申請書ニハ本文掲記ノ事由ヲ記シ意見書ヲ添付スヘシ

二 設立許可ノ申請書ハ一通定款及寄附行爲ハ二通ヲ添付セシムヘシ

三 設立ノ法人ヨリ差出ス書類ニシテ內務大臣ノ許可承認等ヲ要スルモノハ總テ三通ヲ提出セシムヘシ

●勤儉貯蓄奬勵ノ件

訓令第七十號（明治三十五年十一月二十一日）

郡役所 警察署
警察分署 縣立學校
農事試驗場 水產試驗場
測候所 蠶種檢查所
縣立病院 縣立娼妓病院
農事試驗場 郡立病院
市役所 町村役場
市町村立小學校

國本ヲ鞏固ニシ國運ヲ隆盛ナラシメムニハ國民ヲシテ勤儉貯蓄ノ精神ヲ發揮セシムルヨリ急ナルハナシ苟クモ職ヲ官公署ニ奉スルモノハ深ク現時ノ

〔鳥取令〕

●社團又ハ財團ヲ法人ト爲スニ付申請書ノ經由方申出ノ場合取調方

狀態ニ鑑ミ奢侈ヲ制シ勤儉ヲ守リ餘財ヲ貯蓄シ官公吏タルノ品位ヲ保持スルト同時ニ一般國民ノ先導タラサルヘカラス況ンヤ其ノ監督奬勵ノ職ニ在ル者ニ於テオヤ依テ此ノ際各貯蓄規約ヲ設ケ永遠ニ之カ實行ヲ期シ以テ此ノ美風ヲ發揚センコトニ努ムヘシ

●勤勉貯蓄ノ實況報告方

（書式）

勤勉貯蓄實況報告

名稱	實行ノ始期	貯蓄方法	貯蓄戸數	貯蓄人員	穀物	成績 有價證券	成績 金員
々組合							
、、、、							
合計							

何年十二月末日現在

右及報告候也

年 月 日

知事 郡長） 宛

備考

此ノ報告ニハ共同貯蓄ニ係ルモノ、ミヲ掲クルモノトス

穀物ハ石數有價證券ハ額面金員ハ現金ヲ掲クルモノトス

訓令第六十號（明治三十八年十月二十四日）

郡長 市町村長

市町村長ハ毎年十二月末日ニ於ケル勤勉貯蓄ノ實況ヲ調査シ翌年一月二十日迄ニ別紙書式ニ依リ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告ヲ取絡メ一月三十一日迄ニ同一ノ書式ニ依リ知事ニ報告スヘシ

〔鳥取令〕

●門戸表札書式

縣令第六十三號（明治二十四年十月六日）

市町（村）（長）

門戸表札書式左ノ通更正候條表門又ハ家屋表口等衆庶ノ見易キ箇所ニ掲クヘシ

本品適宜

竪七寸

鳥取縣何郡（市）何町（村）大字何〻何番屋敷（寄留）

華（士）族（平民）

何

誰

寄留者ハ本籍住地ヲ現住地ノ右ニ併記スヘシ

第二類

地方制度

第二類　地方制度

第一章　縣制度

第一節　縣吏員、職員

明治三十六年三月十四日縣令第八號　鳥取縣有給縣吏員及職員退隱料退職給與金遺族扶助料給與規則　一

明治三十六年四月五日縣令第九號　鳥取縣有給縣吏員及職員退隱料退職給與金遺族扶助料給與規則施行細則　三

第二節　縣有財產

明治三十一年九月五日訓令第八十六號　縣有不動產取扱方　五

明治三十一年九月三十日訓令第百十三號　縣有動產管理方法　八

第三節　縣稅、賦金

大正三年三月十一日縣令第四號　縣稅賦課規則　八

大正三年三月二十二日縣令第七號　縣稅賦課規則施行細則　一七

明治四十二年三月二十四日縣令第十九號　縣稅徵收ニ關スル施行細則　一九

大正二年四月四日縣令第十七號　縣稅及縣稅外諸收入金特別納入取扱手續　四二